

授業科目名の区分		基礎分野			
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員	
人間と環境	講義	1年次前期	1単位30時間	外部講師	
目的	1. 医学、看護学と密接に関連している物理学、化学、生物学の基礎を学び、科学的な考え方の基盤とし、看護の臨床判断に対する洞察力、判断力を高める。				
目標	1. 代表的な物理法則を理解し、日常使われている物理量と単位について理解できる。 2. 生体を構成する物質に関する基礎知識が理解できる。 3. 生命体としての人の構造と機能が理解できる。人の発生と遺伝が理解できる。				
評価方法	評価方法:筆記試験(100%)				
回	日時	授業内容	内容	担当者	
1回	/	物理学の基礎知識	・物理を学ぶための準備 ・運動と力		
2回	/		・熱 ・音と光	・パルスオキシメーター ・エコー	
3回	/		・電気と磁気	・オームの法則 ・回路	
4回	/		・放射線	・X線の α 、 β 、 γ 線 ・医療への応用	
5回	/	化学の基礎知識	・化学の単位と元素の周期表 ・物質の三態		
6回	/		・液体、溶液の性質 ・溶液の濃度		
7回	/		・化学反応 酸と塩基 酸化と還元 ・化学平衡(アシドーシス・ケトーシス)		
8回	/		・無機化学、化学結合と原子の構造		
9回	/		・有機化学 ・有機化合物とは		
10回	/	生物学の基礎知識	・生物学とは ・生体構成元素	・生命観 ・細胞のつくりと主なはたらき	
11回	/		・生体維持のエネルギー ・糖質の基礎		
12回	/		・遺伝情報のDNA、RNAについて		
13回	/		(栄養) ・生化学の準備 三大栄養素とは		
14回	/		・糖、脂質、タンパク質(アミノ酸)の基礎		
15回	/	テスト	試験実施および解説		
履修者へのコメント:					
使用テキスト:系統看護学講座 基礎 生物学 化学 物理学 医学書院					
備考:					

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
文章表現法	講義・演習	1年次前期	1単位30時間	外部講師
目的	1. 論理の形式や構造を学び、文章を読み解き、書く力を高める。 2. 自分の考えを深め、理解力と表現力を高める。			
目標	1. レポートや論文などの理論的な文章を書く際の、文章作成上の基本的なルールが身に着く。 2. 正しい日本語の表現方法がわかる。 3. 自分の考えを述べる書き方を身に着ける。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1回	/	文章表現の仕方	・伝えるではなく伝わる文章を	
2回	/	文章表現のしくみ	・論文の書き方	
3回	/	文章を書く技術	・スキーマの作り方	
4回	/		・アウトラインの作り方	
5回	/	テーマにそって文章を書く	・出された「テーマ」に添った文章を書く	
6回	/		・出された「テーマ」に添った文章を書く	
7回	/	文章読解・作文	・出された課題の文章を読み作文する	
8回	/		・出された課題の文章を読み作文する	
9回	/	テーマにそって文章を書く	・テーマ「身体拘束ゼロに向けて」	
10回	/	テーマにそって文章を書く	・テーマ「寿命が長い要因について」	
11回	/	テーマにそって文章を書く	・テーマ「定性的分析と定量分析について」	
12回	/	テーマにそって文章を書く	・テーマ「マンダラチャート」	
13回	/	テーマにそって文章を書く	・テーマ「災害現場と医療的支援(トリアージ)」	
14回	/	テーマにそって文章を書く	・テーマ「医療支援の国際化」	
15回	/	本試験	出された課題に添って文章を書く	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:				
備考:				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
看護情報学 I	講義	1年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的	医療関連情報は多種・多様となり、文書処理、情報の分類、画像処理、通信、計算、意思決定などコンピュータ処理は不可欠である。情報処理関連用語の理解とコンピュータ操作に慣れる。			
目標	1. ワードプロセッサ、表計算、画像処理、プレゼンテーションソフトの操作ができる。 2. 医療機関での医療情報の流れ、保管、共有の仕組みがわかる。 3. 情報倫理、医療倫理について理解し、取り扱い方法がわかる。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1回	/	情報学 I	看護情報学ガイダンス・シラバス説明 情報学教科書1-3章	
2回	/	情報学 I	情報学教科書4-6章	
3回	/	情報学 I	情報学教科書7-9章	
4回	/	情報学 I	情報学教科書10-14章	
5回	/	情報リテラシー入門	データDL、展開(ZIPファイル)操作 ファイルデータ管理方法、入力基礎練習	
6回	/	情報リテラシー入門 (文書作成)	文書作成基礎学習 I	
7回	/	情報リテラシー入門 (文書作成2)	文書作成基礎学習 II	
8回	/	情報リテラシー入門 (文書作成応用)	文書作成応用(編集) ビジネス文書作成基礎 (練習問題)	
9回	/	情報リテラシー入門 (プレゼンテーション基礎学)	プレゼンテーション学習(練習問題)	
10回	/	情報リテラシー入門 (プレゼンテーション応用)	プレゼンテーション完成(練習問題)	
11回	/	情報リテラシー入門 (表計算基礎学習)	表計算アプリの画面構成・操作基礎	
12回	/	情報リテラシー入門 (表計算基礎学習)	表計算操作演習(2)	
13回	/	情報リテラシー入門 (表計算基礎学習)	データベース操作	
14回	/	情報リテラシー入門 (表計算グラフ)	グラフ作成 練習課題配布	
15回	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 系統看護学講座 基礎 統計学 医学書院				
備考: 大学講師。情報処理技術資格所持。				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
看護情報学Ⅱ	講義	3年次前期	1単位/15時間	外部講師
目的	医療、看護分野では様々な情報がコンピューターによって処理されている。スタッフ間での情報共有も進んでいる。的確な看護臨床判断を行なうためにもデータを活用し、的確な看護援助につなげられるよう学ぶ。			
目標	1. 看護データ、医療情報を得て、情報を統合し看護臨床判断を行なうための基礎的知識が身に着く。 2. 情報管理、医療倫理について理解し、取り扱い方法がわかる。			
評価方法	1.筆記試験(100%)			
回数	日時	授業内容	内容	担当者
1回	/	文字情報の整理	A.対象と目的に応じた文字情報の整理のポイント	
2回	/		B.レポートの書き方の基礎	
3回	/		C.ワープロソフトの使い方	
4回	/	情報の発表とコミュニケーション	A.口頭発表とポスター発表 ①プレゼンテーション ②口頭発表とポスター発表の違い ③プレゼンテーションの構成 ④資料の作成と事前準備	
5回	/		B.インターネットにおける発表とコミュニケーション ①ウェブサイトでの発表 ②ソーシャルメディアの利用	
6回	/			
7回	/			
8回	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 系統看護学講座 基礎 統計学 医学書院				
備考: 大学講師。情報処理技術資格所持。				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
保健体育	講義・実践	1年次前期	1単位/15時間	外部講師
目的	心身の機能の発達と心の健康について理解し、健康維持と身体と心の調和のとれた状態について学ぶ。			
目標	1. 生活のなかでの健康のとらえ方、保持増進・疾病予防、精神の健康などを理解し、看護学学習の基礎として活用できる。 2. 運動に伴う心身の変化、適応について実技を交えながら学ぶ。			
評価方法	1.筆記試験及び実技・演習(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1回	/	現代社会と健康 健康の保持増進と疾病の予防	①私たちの健康のすがた ②健康のとらえ方 ③運動と健康	
2回	/	心の健康	①心身の相関とストレス ②ストレスへの対処 ③レクリエーションの基本的理解	
3回	/	レクリエーションの展開方法	①表現力トレーニング ②コミュニケーションのあり方 ③レクリエーションのゲーム実際と指導 ④集団を介したレクリエーションの指導の実際 ⑤アレンジのポイント	
4回	/	レクリエーションの実際方法	①レクリエーションプログラムの実際 ②既成の遊びプログラム(子ども・高齢者など)	
5回	/	心の健康と実践	実技	
6回	/	心の健康と実践	実技	
7回	/	心の健康と実践	実技	
8回	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:				
備考:教育施設で保健体育講師				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
教育学	講義	1年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的	社会の本質、目的、方法、評価を学び、看護・医療との関連の理解を深める。 教育制度、現代教育の課題について学び、専門職業人として教育の意義を学ぶことを目的とする			
目標	1. 現代社会を形成する人々の教育が課されてきた歴史を理解する。 2. 教育と子供の活動、人間の生活との関係、教育が子供の成長や社会の発展に対して、どんな役割を持つかについて学ぶ。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	教育とは	教授、指導、開発、養護について 主体(自己)、対話(他者)、共有(継承)	
2	/	教育の問題点について	近代教育論とルソーの「エミール」について	
3	/	ジェンダー教育	トランスジェンダー問題 LGBTQと性的指向の性自認の視点	
4	/	子どもの権利保障	生殖補助医療と子どもの権利保障	
5	/	教育と宗教 I	文化と文明、キリスト教、イスラム教、 ハラールとハラム	
6	/	教育と宗教 II	仏教の概念、	
7	/	E.キューブラロス	死に至るまでの五つの段階	
8	/	歴史の流れ	言葉から虚構にいたる過程 「サピエンス全史」を用いて	
9	/	文章構成について	序論、本論、結論と逆三角形の論理構成について	
10	/	教育の価値変換	ジョージオーウェルの「動物農場」について	
11	/	NIEについて	新聞を活用した教育実践について	
12	/	NIEについて	キャリア教育(専門教育)・ジェンダーとセクシュアリティ	
13	/	教育と読書	夏目漱石「三重吉宛書簡」、江藤淳「夜の紅茶」	
14	/	メディアリテラシー	フェイクニュース時代におけるメディアリテラシー教育	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト : 系統看護学講座 基礎 教育学 医学書院				
備考:				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
社会学	講義	1年次前期	1単位15時間	外部講師
目的	人間が生活している社会は変化し、それに伴い日常生活も変化している。変化が健康や看護や社会とどのように関わっているか保健医療の観点から理解し、社会人、職業人としての関わりかたの基本的な考え方を学ぶ。			
目標	1. 社会学の基本概念がわかる 2. 人間が社会的な存在であることを理解する 3. 健康が社会とどのように関連しているか、理解できる。 4. 社会の中で健康維持のための保健医療制度の在り方を学ぶ。 5. 現代社会の諸問題について学ぶ。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	社会とは何か	「社会学」概略	
2	/	G7 グローバルレンズ日本	日本の立場・展開	
3	/	環境対策	コロナ対策等	
4	/	アジア太平洋と日本	1. アジア情勢と日本 2. アジア太平洋の時代	
5	/	歴史的展開と社会	1. 近代文明の終焉と日本の進路 2. 新たな文明を求めて	
6	/	総括・課題	グローバルレンズ:前提	
7	/	総括・課題	グローバルレンズ:総括・本論 社会、自然に生かされている自分	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 基礎 社会学 医学書院				
備考: 筑波TIA顧問 政策科学研究所 国際公共経済学会顧問				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
医療英語 I	講義	1年次前期	1単位/15時間	外部講師
目的	基礎的な英語力の向上と、オーラルコミュニケーションの向上を目指す。			
目標	1. 基礎的な英語を理解する。 2. 英語による簡単なやりとりができるようになる			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	単語	身体をあらわす言葉	
2	/	単語	薬 病気	
3	/	単語	お医者さん 科目名	
4	/	病気を訴える	一般的な症状 風邪かな？ おなかの病気	
5	/	病気を訴える	痛みをともなう病気 歯が痛んだら	
6	/	病気を訴える	ケガの表現	
7	/	診察	診察してもらおう	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:				
備考:外国語学部・英語学科。				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
医療英語Ⅱ	講義	2年次後期	1単位／15時間	外部講師
目的	一般的な英語の力の向上と、医療従事者として必要な英語の知識の向上を目的とする			
目標	医療に関連する基本的な英語表現がわかり、簡単なやりとりができるようになる			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	医学用語の効果的な学び方 接尾語	医学用語の基本構造 接尾語① 症状に関するもの	
2	/	接尾語	接尾語②診断に関するもの ③手術に関するもの	
3	/	語幹	語幹①筋・骨格系 ②神経・感覚器系	
4	/	語幹	語幹③呼吸器・循環器系 ④消化器系	
5	/	語幹	語幹⑤尿・生殖器系 ⑥その他	
6	/	接頭語	接頭語① 接頭語②	
7	/	復習	医療現場の英語表現をのぞいてみよう。	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:				
備考:外国語学部・英語学科。				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
心理学	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的	人間の行動・情緒・性格や基本的な人間関係について学び、自己及び他者の心理について理解を深める。			
目標	1. 心理学の研究対象や研究方法およびその変遷について理解する。 2. さまざまな心理現象の仕組みや特徴について理解できる。 3. 人間の社会的行動を理解できる。 4. 患者及び援助者の心理を理解したうえで看護に活かすことができる。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	心理学とは	心理学で学ぶこと 心理学の歴史	
2	/	感覚・知覚・認知	外界の理解 感覚のしくみ 知覚と認知のプロセス	
3	/	記憶	記憶のメカニズム 短期・長期記憶と忘却	
4	/	思考・言語・知能	問題解決、推論 言語とコミュニケーション	
5	/	学習	条件付け、学習理論 社会的学習	
6	/	感情 動機づけ	感情のしくみ、メカニズム 動機付け、葛藤	
7	/	性格	性格とパーソナリティ、性格の構造 性格の測定	
8	/	社会心理学	社会的認知 態度・説得・コミュニケーション	
9	/	社会心理学	集団心理	
10	/	社会心理学 発達心理学	リーダーシップ ライフサイクル・発達段階	
11	/	発達心理学	乳幼児期～	
12	/	発達心理学	児童期～成人期	
13	/	医療・看護と心理	患者・医療者の心理 まとめ	
14	/	心理臨床	心の病・ストレス 心理療法	
15	/	試験	テスト	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 基礎 心理学 医学書院				
備考: 専門学校日本医科学大学校講師 日本カウンセラー協会				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
倫理学	講義	1年次後期	1単位／15時間	外部講師
目的	現代生命倫理にかかわる問題の背景を学び、倫理的な思考能力と基本的な人権意識を養う。			
目標	1. 現代医療の現場における具体的な生命倫理の諸問題の内容が理解できる。 2. 諸問題を倫理的原則を踏まえて解決するための基礎的な力を育む。 3. 医療現場の倫理的な問題に気づくことが出来る感性=倫理的感性を高める。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	
1	/	倫理学とは	倫理の歴史、意味 倫理の扱う分野	
2	/	哲学と倫理学	アリストテレスの倫理学 「徳」とは	
3	/	徳について	美徳を識別する	
4	/	実践の倫理	発揮できていない「徳」と倫理	
5	/	他者と自分との間にある倫理	他者・相手の徳に気づく	
6	/	価値観	多様な価値観を知り自己の価値観を内省する。	
7	/	まとめ	これまでの人生を振り返り、未来へのつなげ方を考える・	
8	/	試験	テスト	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院				
備考: 専門学校日本医科学大学校講師 日本カウンセラー協会				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
多文化理解	講義	1年次後期	1単位/15時間	外部講師
目的	人間と文化、個人、家族、宗教、健康、死について考える。 様々な文化を理解し、共生する社会について深い洞察力を高める。			
目標	1. 文化・通過儀礼・宗教・世界観・死を通して人間のつながりを学び、一個人としての自身を考える原点とする。 2. 様々な文化を理解し、多様な対象へのケアについて考えることができる。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	宗教における文化と文明	宗教の分類 自然宗教(アニミズム、アニマティズム、マナイズム、呪術)	
2	/	部族から民族宗教へ	リネージ、クラン、キンドレッド、トーテミズム、多神教	
3	/	万葉集から古今集の時代へ	女流歌人の行方、古今集の特色 歌合の流行、歌論の発達、伝統の固定と制度化	
4	/	海外の文化・生活の考察	海外旅ルポルタージュの通読と解説 パプアニューギニア、インドネシア(バリ)	
5	/	アジアの舞踊(劇)	ケチャの構成、カタカリの色彩(顔料)など	
6	/	やさしい日本語①	留学生現状 「やさしい日本語」導入「JLPT」	
7	/	やさしい日本語②	医療の「やさしい日本語」って？ メディカル・オノマトペについて	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 基礎 文化人類学 医学書院				
備考: 東京福祉大学留学生日本語別科				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
カウンセリング	講義	2年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的	臨床や日常生活に役立つカウンセリング技術を身に付け、自己・他者理解と支援を目指す。			
目標	1. カウンセリングの基本的な概念やいくつかの手法についてわかる。 2. 自分自身の問題意識に基づいた自己の振り返りをおこなうことができる。 3. コミュニケーションを深める方法を理解し、「関係性」について学習する。 4. カウンセリング体験を通して自己理解・他者理解を深める。 5. カウンセリング演習を通して心理援助の基本的態度を学ぶ。			
評価方法	筆記試験・レポート(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	ガイダンス	①ガイダンス ②カウンセリングとは	
2	/	カウンセリング理論Ⅰ	①来談者中心療法 ②ゲシュタルト療法	
3	/	カウンセリング理論Ⅱ	①認知療法 ②精神分析	
4	/	自己理解・他者理解Ⅰ	自分史について考える。	
5	/	自己理解・他者理解Ⅱ	①自分自身の対人関係について考える。 ②自分自身の長所・短所について考える。	
6	/	コミュニケーションスキルⅠ	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	
7	/	コミュニケーションスキルⅡ	受容と共感	
8	/	コミュニケーションスキルⅢ	共感的理解と姿勢	
9	/	ロールプレイ1	傾聴する	
10	/	ロールプレイ2	相手の考えや感情をアセスメントする。	
11	/	ロールプレイ3	自分が体験したことがないことに共感する。	
12	/	ロールプレイ4	適切な質問スキルと自己開示	
13	/	グループディスカッション	自分が考える心理的思念についてまとめ発表する準備をする	
14	/	レポート発表	グループでディスカッションを行い、振り返る	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 基礎心理学 医学書院 基礎人間関係論 医学書院				
備考: 専門学校日本医科学大学校講師 日本カウンセラー協会				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
人間関係論 (メンタルヘルス)	講義	2年次後期	1単位30時間	専任教員
目的	多角的、包括的に人間を捉え、看護の役割を理解し、援助関係を高めることを目指す。 自己のメンタルヘルスコントロールを高める。			
目標	1. 他者理解をするための自己理解の必要性がわかる。 2. 他者を理解し、人間関係構築に必要な要素を身に着ける。 3. 人間関係で予想されるトラブルを理解し、解決法を身に着ける。 4. チーム医療において看護専門職及び多職種と協力し、連携するために必要な知識を知る。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	人間関係の中の自己と他者	A.人間関係論とは B.自己認知 C.対人認知	
2	/	対人関係と役割	A.対人関係の成立 B.対人関係の維持と崩壊 C.対人葛藤と対処 D.社会的役割	
3	/	態度と対人行動	A.態度と態度変化 B.説得的コミュニケーション C.攻撃 D.援助	
4	/	集団と個人	A.集団の特性 B.集団での課題遂行 C.集団での問題解決と意思決定 D.リーダーシップ	
5	/	コミュニケーション	A.コミュニケーションとは B.対人コミュニケーション C.マスコミュニケーション D.ICTの発達とコミュニケーション	
6	/	カウンセリングと心理療法	A.カウンセリング・心理療法の理論とスキル B.看護への適応	
7	/	コーチング	A.コーチング理論とスキル B.看護への適応	
8	/	アサーティブコミュニケーション	A.アサーションの理論とスキル B.看護への応用	
9	/	保健医療チームの人間関係	A.医療におけるチームと看護師の役割 B.チームワークとチームエラー C.チームにおけるコミュニケーションエラーとその予防 D.多職種連携に向けて	
10	/	患者を支える人間関係	A.患者・医療者関係 B.患者・看護師間の相互作用の評価 C.さまざまな看護場面における人間関係	
11	/	家族を含めた人間関係	A.家族関係論 B.家族看護の展開 C.さまざまな状況・患者と家族の看護	
12	/	地域を作る人間関係	A.個人を取り巻く人間関係 B.ピアサポートを通じた人間関係 C.人間関係の集合としての地域の力 D.人間関係の力が最大になる社会	
13	/	事例検討Ⅰ	事例Ⅰ うつ病患者への認知再構成法、行動活性化を用いた介入例	
14	/	事例検討Ⅱ	事例Ⅱ 教育担当看護師が新人看護師への指導にコーチングを取り入れた事例	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 基礎 人間関係論 医学書院				
備考:				

授業科目名の区分		基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
キャリアデザイン論	講義	3年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的	看護師としてのキャリアデザインの概要を理解し、これからのキャリアプランを考える。			
目標	1. 看護専門職としての成長・発達過程を理解する。 2. 看護師養成教育の歴史的経緯と教育課程の内容とその特徴を理解する。 3. 看護の専門性を発展させていく重要性、自己研鑽の意義を理解する。 4. 看護サービスのマネジメントを理解する。 5. 看護ケアの質補償を理解する。 6. 組織・チームに対する看護専門職としてのリーダーシップを理解する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	ガイダンス	ガイダンス キャリアデザインとは。 何のために働くのか	
2	/	自分を知る	自分にとって最も大切なもの －自分の価値観・軸－	
3	/	多様化する看護従事者	①専門職業人とは。 ②看護職として働くということ	
4	/	看護専門職としての成長・発達過程	①キャリアの定義 ②キャリアの発達過程	
5	/	看護専門職としての成長・発達過程	③キャリアサイクル ④キャリアアンカーとキャリアプラン	
6	/	看護師養成教育の歴史的経緯と教育課程の内容とその特徴	①看護師養成教育に関わる法・制度の変遷 ②社会・制度の変化と教育課程の内容	
7	/	看護専門職と生涯学習	①看護の専門性を発展させていく重要性 ②自己研鑽の意義	
8	/	継続する看護活動	③生涯学習の在り方と方法 ④継続教育	
9	/	看護サービスのマネジメント	①理念の形成と浸透 ②看護の組織化 ③人事労務管理 ④物的資源の管理	
10	/	安全なケアの提供と質補償	①リスクマネジメント	
11	/	安全なケアの提供と質補償	②ケアの質評価 ③看護技術の経済評価	
12	/	組織・チームに対する看護専門職としてのリーダーシップ	①組織変革とリーダーシップ ②チーム医療における看護専門職としてのリーダーシップ	
13	/	後進へ伝えるということ	新人教育と指導	
14	/	自己の展望		
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:				
備考:看護管理経験者による講義。				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
代謝栄養学(含生化学)	講義	1年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的	人体の構成成分や代謝や生体の防御機構について学ぶ。 健康を維持する栄養学の基礎を学び、ライフステージ別の臨床栄養を学ぶ。 遺伝情報の仕組みと役割について学ぶ。			
目標	1. 生体を構成する物質を理解する 2. 恒常性を維持するメカニズムを理解し、メカニズムの破綻より引き起こされる疾病を理解する 3. ライフステージに合わせた健康管理の特徴を理解する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【生化学】 生体を構成する物質とその代	生化学を学ぶための基礎知識(自然科学で行った内容の総復習) 糖代謝	
2	/	糖	血糖値の調節・解糖系 Gluの細胞内取り込みとインスリン、グルカゴン	
3	/	脂質	TCAサイクル、電子伝達系 Glyの代謝、ペントースリン酸サイクル	
4	/	蛋白質	リポプロテイン、β酸化、TGの合成、コレステロールの合成	
5	/	アミノ酸代謝	脱炭酸反応、脱アミノ反応(アミノ基転移)	
6	/	【栄養学】 人間栄養学と看護 栄養素の種類とはたらき	A. 栄養を学ぶということ B. 保健・医療における栄養学 C. 看護と栄養 ----- A. 糖質 B. 脂質 C. タンパク質 D. ビタミン E. ミネラル F. 食物繊維 G. 水	
7	/	食物の消化と栄養素の 吸収・代謝	A. 食物の消化 B. 栄養素の吸収 C. 血漿成分と栄養素 D. 栄養素の代謝 E. 吸収・代謝産物の排泄	
8	/	エネルギー代謝 食事と食品	A. 食品のエネルギー B. 体内エネルギー C. エネルギー代謝の測定 D. エネルギー消費 ----- A. 食事とその変遷 B. 食事摂取基準 C. 食品群とその分類 D. 食品に含まれる栄養素	
9	/	栄養ケア・マネジメント	A. チームアプローチと栄養ケア・マネジメント B. 栄養スクリーニング C. 栄養アセスメント D. 栄養ケア計画 E. 栄養ケア計画の実施とモニタリング F. 栄養ケア・マネジメントの評価	
10	/	栄養状態の評価・判定	A. 栄養アセスメントの意義 B. 栄養アセスメントの方法 C. 栄養状態の総合評価	
11	/	ライフステージと栄養	A. 乳児期における栄養 B. 幼児期における栄養 C. 学童期における栄養 D. 思春期・青年期における栄養 E. 成人期における栄養 F. 妊娠期における栄養 G. 授乳期における栄養 H. 更年期における栄養 I. 高齢期における栄養	
12	/	臨床栄養 I	A. チームで取り組む栄養管理 B. 病院食 C. 栄養補給法 D. 経腸栄養製品 E. 静脈栄養剤	
13	/	臨床栄養 II	F. 疾患・症状別食事療法 G. 場面別の栄養管理 H. がんの食事療法	
14	/	健康づくりと食生活	A. 食生活の変遷と栄養の問題点 B. 生活習慣病の予防 C. 食生活の改善への施策 D. 食の安全性と表示	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能2 生化学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能3 栄養学 医学書院				
備考:				

授業科目名の区分		専門基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
臨床微生物学	講義	1年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的	1. 人体に微生物が侵入すると、どのような反応や現象が起こるかを学ぶ。 2. 感染症から人体を守るための予防や対処法を学ぶ。			
目標	1. 微生物の種類、および形態と特徴について理解する。 2. 微生物による感染と感染対策、生体防御機構について理解する。 3. 主な病原微生物について治療法および看護援助に生かす方法がわかる。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時		内容	担当者
1	/	【微生物学の基礎】 微生物と微生物学	A.微生物の性質 B.微生物と人間 C.微生物学の対象と目的 D.微生物学のあゆみ	
2	/	細菌の性質	A.細菌の形態と特徴 B.培養環境と栄養 C.細菌の遺伝 D.細菌の分類 E.常在細菌叢	
3	/	ウイルスの性質	A.ウイルスの特徴 B.培養環境と栄養 C.ウイルスの増殖 D.ウイルスの分類	
4	/	真菌の性質	A.真菌の形態と特徴 B.真菌の増殖 C.真菌の分類と命名法 D.栄養と培養	
5	/	【感染とその防御】 感染と感染症	A.微生物感染の機構 B.感染の成立から発症後の経過まで C.細菌感染の機構 D.ウイルス感染機構 E.真菌感染の機構	
6	/	感染に対する生体防御機構	A.免疫にかかわる細胞、組織 B.自然免疫のしくみ C.獲得免疫のしくみ D.粘膜免疫のしくみ E.感染の徴候と症状	
7	/	滅菌と消毒	A.バイオハザードとバイオセーフティー B.滅菌・消毒の意義と定義 C.熱による滅菌・消毒 D.放射線・紫外線による滅菌・消毒 E.ガス滅菌 F.濾過除菌 G.消毒薬	
8	/	感染症の検査と診断	A.病原体を検出する方法 B.生体の反応から診断する方法	
9	/	感染症の治療	A.抗菌薬(抗細菌薬) B.抗ウイルス薬 C.抗真菌薬 D.その他の治療法	
10	/	感染症の現状と対策	A.感染症の変遷 B.感染症の現状と問題点 C.感染症の対策	
11	/	【おもな病原微生物】 病原細菌と細菌感染症	A.グラム陽性球菌 B.グラム陰性球菌 C.グラム陰性好気性桿 D.グラム陰性通性桿菌 E.カンピロバクター属 F.グラム陽性桿菌 G.抗酸菌と放線菌 H.嫌気性菌 I.スピロヘータ J.マイコプラズマ K.リケッチャー L.クラミジア科	
12	/	病原ウイルスとウイルス感染症	A.DNAウイルス B.RNAウイルス C.ウイルスの臨床的分類	
13	/	病原真菌と真菌感染症	A.深在性真菌症をおこす真菌 B.深部皮膚真菌症をおこす真菌 C.表在性真菌症をおこす真菌	
14	/	寄生虫と衛生動物	A.寄生虫学総論 B.原虫 C.蟻虫 D.衛生動物	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進4 微生物学 医学書院				
備考: 環境衛生学、生物学講師				

授業科目名の区分		専門基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
総合医療論	講義	1年次前期	1単位/15時間	外部講師
目的	医療や看護の原点から学び、現代医療の実際と今後の課題について理解を深める。			
目標	1. 保健医療に携わるものとして、今日の医療の現状について知る。 2. 高齢化、医療の高度化・複雑化、医療安全の高まりなど保健・医療・福祉の課題について理解を深める。 3. 今後の望ましい医療と社会との関係を洞察できる。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	医療コミュニケーションの原点にさかのぼる 医療と看護の原点	A.看護「心」－援助と共感 B.専門職としての意思と看護師 C.病の体験 D.癒しの行為と癒しの知 A.命について考える B.健康のとらえ方 C.病の体験 D.癒しの行為と癒しの知	
2	/	医療の歩みと医療観の変遷	A.現代医学の起源 B.医療観の移り変わり C.チーム医療とマネジメント	
3	/	私たちの生活と医療	A.もしも私たちが病気やけがをしたら B.私たちの生活と保健・福祉行政 C.疾病の一次予防と健康増進	
4	/	科学技術の進歩と現代医療の最前線	A.科学技術の進歩と社会・生活の変化 B.現代医学と先端医療技術の最前線	
5	/	現代医療の新たな課題	A.薬剤の副作用と手術合併症 B.医療病という考え方とケアの実践 C.先端医療技術がもたらした倫理上の葛藤 D.生命倫理学と臨床倫理学の展開 E.医療不信から「賢い患者」へ F.医療と法制度	
6	/	医療を見つめ直す新しい視点	A.臨床疫学－医療における合理的判断 B.患者の安全 C.医療の管理と評価 D.情報化社会と医療 E.これからの先端医療技術開発	
7	/	保健・医療・介護・福祉の近未来像	A.病院・施設でのケアから生活の場におけるケアへ B.近未来の保健・医療・介護・福祉を担う専門職像 C.地球環境問題と私たちの健康	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院				
備考: 医師				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
人体の構造と機能Ⅰ (基礎知識・消化器)	講義	1年次前期	1単位/30時間	中村陽市
目的	1. 解剖学で人体の形態と構造を、生理学で役割と機能を学ぶ必要性がわかる。 2. 人体の支柱である骨格系および生命を維持するための消化器系の形態と機能について学ぶ。			
目標	1. 解剖生理学ための基礎的知識を理解する。 2. 人体の各部位の名称と構造の特徴を理解する。 3. 人体を構成する器官レベルでの生命維持のための働きを知る。 4. 骨格系・消化器系の器官の形態と機能を理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%):小テスト(20%)・定期テスト(80%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【序章】 人体の構造と機能を学ぶために	①人体の構造と機能をどのように学ぶか。 ②解剖学と生理学の歴史と現在 ③自然界における人類の位置 ④社会のなかの人体	
2	/	【解剖生理学のための基礎知識】 A 構造から見た人体 B 人体のさまざまな器官 C 素材からみた人体	①人体の階層性 ②体表から見える人体の部位 ③骨格による人体の区分 ④人体の内部にある腔所 ⑤方向と位置を示す用語 ①機能からみた人体と器官系 ②全身に広がる人体の器官 ①細胞の構造と機能	
3	/	【身体の支持と運動】 A 骨格とはどのようなものか B 骨の連結	①人体の骨格 ②骨の形態と構造 ③骨の組織と組成	
4	/		①頭蓋骨 ②脊柱 ③骨盤	
5	/		①上肢の骨格 ②下肢の骨格	
6	/	【栄養の消化と吸収】 A 口・咽頭・食道の構造と機能	①口の構造と機能	
7	/		②咽頭と食道の構造と機能	
8	/	B 腹部消化管の構造と機能	①胃の構造 ②胃の機能	
9	/		③小腸の構造 ④小腸の機能 ⑤栄養素の消化と吸収	
10	/		⑥大腸の構造と機能	
11	/	C 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	①膵臓 膵臓の構造 膵臓と膵液	
12	/		②肝臓と胆嚢の構造 ③肝臓の機能	
13	/	D 腹膜	①腹膜と腸間膜 ②腹膜と内臓の位置関係 ③胃の周辺の間膜	
14	/	嚥下と排便	①嚥下 ②排便	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)				
備考:東京医科大学 客員研究員、日本大学医学部 兼任講師				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
人体の構造と機能Ⅱ	講義	1年次前期	1単位/30時間	中村陽市
目的	1. 生命を維持する循環器系・呼吸器系・泌尿器系の形態と機能について学ぶ。			
目標	1. 循環器系・呼吸器系・泌尿器系の形態と機能を理解する。 2. 各器官のはたらき、調節するシステムなど生命を維持する活動について説明できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%):小テスト(20%)・定期テスト(80%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【血液の循環とその調節】 A 循環器の構成 B 心臓の構造	①心臓の位置と外形 ②心臓の4つの部屋と4つの弁 ③心臓壁 ④心臓の血管と神経	
2	/	C 心臓の拍出機能	①心臓の興奮とその伝播 ②心電図 ③心臓の収縮	
3	/	D 末梢循環系の構造	①血管の構造 ②肺循環の血管	
4	/		③体循環の動脈	
5	/		④体循環の静脈	
6	/	E 血液の循環の調節	①血圧(動脈圧) ②血液の循環 ③血圧・血流量の調節	
7	/		④微小循環 ⑤循環器系の病態生理	
8	/	F リンパとリンパ管	①リンパ管の構造 ②リンパの循環	
9	/	【呼吸と血液のはたらき】 A 呼吸器の構造	①呼吸器の構成 ②上気道 ③下気道と肺 ④胸膜・縦隔	
10	/	B 呼吸	①内呼吸と外呼吸 ②呼吸器と呼吸運動 ③呼吸気量	
11	/		④ガス交換とガスの運搬 ⑤肺の循環と血流	
12	/		⑥呼吸運動の調節 ⑦呼吸器系の病態生理	
13	/		【体液の調節と尿の生成】 A 腎臓	①腎臓の構造と機能 ②糸球体の構造と機能 ③尿細管の構造と機能 ④傍糸球体装置 ⑤クリアランスと糸球体濾過量 ⑥腎臓から分泌される生理活性物質
14	/	B 排尿路	①排尿路の構造 ②尿の貯蔵と排尿	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)				
備考:東京医科大学 客員研究員、日本大学医学部 兼任講師				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
人体の構造と機能Ⅲ	講義	1年次後期	1単位/30時間	中村陽市
目的	1. 生命の継続に関係する生殖器系の形態と機能について学ぶ。 2. 中枢神経系および末梢神経系の構造と機能について学ぶ。			
目標	1. 生殖器系の形態と機能を理解する。 2. 神経系の形態と機能を理解し、情報の受容と処理について説明できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%):小テスト(20%)・定期テスト(80%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	C 体液の調節	①水の出納 ②脱水 ③電解質の異常 ④酸塩基平衡	
2	/	【生殖・発生の仕組み】 A 男性生殖器	①精巣(睾丸) ②精路(生殖器)と付属生殖器 ③男性の外陰部 ④男性の生殖機能	
3	/	B 女性生殖器	①卵巣 ②卵管・子宮・膣 ③女性の外陰部と会陰 ④乳腺 ⑤女性の生殖機能	
4	/		①生殖細胞と受精 ②初期発生と着床 ③胎児と胎盤 ④小児期の成長 ⑤老化	
5	/	C 受精と胎児の発生 D 成長と老化	①生殖細胞と受精 ②初期発生と着床 ③胎児と胎盤 ④小児期の成長 ⑤老化	
6	/	【情報の受容と処理】 A 神経系の構造と機能	①ニューロンと支持細胞 ②ニューロンでの興奮の伝導 ③シナプスでの興奮の伝達 ④神経系の構造	
7	/	B 脊椎	①脊髄の構造と機能	
8	/	B 脳	②脳の構造と機能	
9	/	D 運動神経と下行伝導路 E 感覚機能	①運動ニューロン ②下行(遠心)伝導路 ①感覚の種類 ②感覚の性質	
10	/	F 体性感覚と上行伝導路	①体性感覚の受容器の種類 ②皮膚の感覚受容器の分布 ③上行(求心)伝導路	
11	/	C 脊髄神経	①脊髄神経の構造と機能 ②脳神経の構造と機能	
12	/	C 脳神経	②脳神経の構造と機能	
13	/	C 脳神経	②脳神経の構造と機能	
14	/	K 脳の統合機能	①脳の活動の測定と脳のリズム ②記憶 ③本能行動と情動行動 ④内臓調節機能 ⑤中枢神経系の障害	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)				
備考:東京医科大学 客員研究員、日本大学医学部 兼任講師				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
人体の構造と機能Ⅳ	講義	1年次後期	1単位/30時間	中村陽市
目的	1. 感覚器系の形態と機能について学ぶ。 2. 内臓機能の調節・身体の運動・身体機能の防御と適応のしくみについて学ぶ。			
目標	1. 外部環境等からの情報を受け取る眼・耳などの構造と機能を理解する。 2. 自律神経の機能、運動器(骨格筋系)の作用、生体防御機能について説明できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%):小テスト(20%)・定期テスト(80%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	G 眼の構造と視覚	①眼球の構造 ②眼球付属器 ③視覚	
2	/	H 耳の構造と聴覚	①耳の構造 ②聴覚 ③平衡覚	
3	/	I 味覚と嗅覚 J 痛み(疼痛)	①味覚器と味覚 ②嗅覚器と嗅覚 ①痛みの分類 ②疼痛の発生機序	
4	/	K 脳の統合機能	①脳の活動の測定と脳のリズム ②記憶 ③本能行動と情動行動	
5	/	【内臓機能の調節】 A 自律神経による調節	①自律神経の機能 ②自律神経の構造 ②自律神経の神経伝達物質と受容体	
6	/	B 内分泌系による調節	①内分泌とホルモン ②ホルモンの化学構造と作用機序	
7	/	C 全身の内分泌腺と内分泌細胞 D ホルモン分泌の調節	①視床下部一下垂体系 ②甲状腺と副甲状腺 ③膵臓 ④副腎 ⑤性腺	
8	/	E ホルモンによる調節の実際	①ホルモンによる糖代謝の調節 ②ホルモンによるカルシウム代謝の調節 ③ストレスとホルモン ④乳房の発達と乳汁分泌	
9	/	【身体の運動】 C 骨格筋 D 体幹の筋 G 頭頸部の筋	①骨格筋の構造 ②骨格筋の作用 ③骨格筋の神経支配 ③背部の筋 ④胸部の筋 ⑤腹部の筋 ③頭部の筋 ④頸部の筋	
10	/	E 上肢の筋 F 下肢の筋	③上肢帯の筋群 ④上腕の筋群 ⑤前腕の筋群 ⑥手の筋群 ⑦上肢の運動 ③下肢帯の筋群 ④大腿の筋群 ⑤下腿の筋 ⑥足の筋 ⑦下肢の運動	
11	/	H 筋の収縮 I 運動と代謝	①骨格筋の収縮機序 ②骨格筋収縮の種類と特性 ③不随意筋の収縮の特徴 ①エネルギー代謝 ②運動とエネルギー	
12		【身体機能の防御と適応】 A 皮膚の構造と機能 生体防御機構	①皮膚の組織構造 ②皮膚の付属器 ③皮膚の血管と神経 ④皮膚の機能	
13	/	B 生体防御機構	①非特異的防御機構 ②特異的防御機構—免疫 ③生体防御の関連臓器	
14	/	C 体温とその調節	①熱の出納 ②体温の分布と測定 ③体温調節 ④発熱 ⑤高体温と低体温	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 解剖生理学 人体の構造と機能①				
備考:東京医科大学 客員研究員、日本大学医学部 兼任講師				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
病理学総論	講義	1年次後期	1単位/15時間	中村陽市
目的	疾病に罹患するとはどのようなことか、正常な細胞・組織の違い、発生原因、進行過程、で生じる様々な現象、身体への影響を理解し、診断方法・治療に関する基本的な考え方を学ぶ。			
目標	1. 病理学の基礎知識を学び、対象の身体的アセスメントに繋げる。 2. 機能障害の原因である疾患の発生と経過について理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%):小テスト(20%)・定期テスト(80%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	病理学で学ぶこと 細胞・組織の障害と修復	【病理学で学ぶこと】 A 看護と病理学 B 病気の原因 C 病気の分類と病理学の学び方 【細胞・組織の障害と修復、炎症】 A 細胞・組織の損傷と適応 B 細胞・組織の損傷に対する反応 C 炎症の分類と治療	
2	/	免疫、移植と再生医療 感染症	【免疫と免疫不全】 A 免疫と免疫不全 B アレルギーと自己免疫疾患 C 移植と再生医療 【感染症】 A 感染の成立と感染症の発病 B おもな感染症 C 感染症の治療・予防	
3	/	循環障害	A 循環系の概要 B 浮腫(水腫) C 充血とうっ血 D 出血と止血 E 血栓症 F 塞栓症 G 虚血と梗塞 H 側副循環による障害 I 高血圧症 J 播種性血管内凝固症候群(DIC) K ショックと臓器不全	
4	/	代謝障害	A 脂質代謝障害 B タンパク質代謝障害 C 糖質代謝異常 D そのほかの代謝障害	
5	/	老化と死 先天異常と遺伝性疾患	A 個体の老化と老年症候群 B 老化のメカニズムと細胞・組織・臓器の変化 C 個体の死と終末期医療 A 遺伝の生物学 B 先天異常 C 遺伝子の異常と疾患 D 先天異常・遺伝性疾患の診断と治療	
6	/	腫瘍	A 腫瘍の定義と分類 B 悪性腫瘍の広がりと影響 C 腫瘍発生の病理 D 腫瘍の診断と治療	
7	/	生活習慣と環境因子による 生体障害	A 生活習慣による生体の障害 B 放射線による生体の障害 C 中毒	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学-疾病のなりたちと回復の促進① (医学書院)				
備考: 東京医科大学 客員研究員、日本大学医学部 兼任講師				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
疾病治療論 I	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的	1. 病理学総論で学んだことを基に、様々な病気の病態について、写真やイラストを参考に、病気の成り立ちについて理解する。 2. 病理学の専門用語を正しく理解する。			
目標	1. 全身の生理機能の仕組みと働きを理解する。 2. 各臓器の病態生理の概要を理解する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	病態生理学を学ぶための基礎知識	A.正常と病気の状態 B.細胞・組織の障害 C.循環障害 D.感染症 E.腫瘍 F.先天異常と遺伝性疾患 G.老化と死	
2	/	皮膚・体温調節のしくみと病態生理	A.皮膚の生体防御のしくみとその障害 B.体温調節のしくみとその障害	
3	/	免疫のしくみと病態生理	A.免疫のしくみ B.免疫反応の低下 C.免疫反応の過剰	
4	/	体液調節のしくみと病態生理	A.体液・電解質の調節とその異常 B.酸・塩基平衡のしくみとその異常	
5	/	血液のはたらきと病態生理	A.骨髄の機能とその障害 B.赤血球の機能とその障害 C.白血球の機能とその障害 D.血小板と出血傾向	
6	/	循環のしくみとその病態生理	A.心臓のポンプ機能と病態生理 B.血圧調節と末梢循環のしくみと病態生理	
7	/	呼吸のしくみと病態生理	A.呼吸器の構造と機能 B.呼吸困難と呼吸不全 C.呼吸器系の防御機構の障害 D.換気の障害 E.ガスの拡散障害 F.肺の腫瘍による障害 G.肺循環の障害 H.呼吸調節の障害	
8	/	消化・吸収のしくみと病態生理	A.消化管の構造と機能 B.摂食・咀嚼・嚥下の障害 C.消化・吸収における障害 D.肝臓・胆嚢の機能と障害 E.膵臓の機能とその障害 F.腹膜・腹膜腔・腸間膜の機能とその障害	
9	/	腎・泌尿器のしくみと病態生理	A.腎臓の構造と機能 B.腎機能の障害 C.泌尿器のしくみと病態生理	
10	/	内分泌・代謝のしくみと病態生理	A.内分泌のしくみとその異常 B.糖代謝とその異常	
11	/	内分泌・代謝のしくみと病態生理	C.脂質代謝とその異常 D.尿酸代謝とその異常 E.骨の代謝とその異常	
12	/	生殖のしくみと病態生理	A.女性生殖器の機能とその異常 B.男性生殖器の機能とその異常	
13	/	脳・神経、筋肉の働きと病態生理	A.脳・神経・筋肉の機能 B.脳循環のしくみとその障害 C.髄膜・髄液のはたらきとその障害 D.脳腫瘍 E.脊髄の障害 F.頭痛 G.意識と認知の障害 H.睡眠障害 I.運動抑制のしくみとその障害 J.筋収縮のしくみとその障害	
14	/	感覚器のはたらきと病態生理	A.視覚器の機能とその異常 B.聴覚器の機能とその異常 C.味覚とその異常 D.嗅覚とその異常 E.皮膚感覚とその異常	
15		テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学 医学書院 系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進2 病態生理学 医学書院				
備考: 総合診療医				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
疾病治療論Ⅱ	講義	2年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的	循環器、血液、造血器系の解剖学の知識をもとに、それぞれの臓器に生じる疾病の成り立ちと検査、治療について学ぶ。			
目標	1. 循環器系に疾患をむつ対象のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。 2. 血液・造血器系に疾患を持つ対象へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【循環器系の疾患】 (病理学) (成人看護学3)	【循環器系の疾患】 A.血管の疾患 B.心臓の疾患	
2	/	症状とその病態生理	A.胸痛 B.動悸 C.呼吸困難 D.浮腫 E.チアノーゼ F.めまい・失神 G.四肢の疼痛 H.ショック	
3	/	検査と治療	A.診察と診断の流れ B.検査	
4	/		C.治療 ①内科的治療 ②外科的治療 ③補助循環装置	
5	/	疾患の理解	A.虚血性心疾患 B.心不全 C.血圧異常 D.不整脈	
6	/		E.弁膜症 F.心膜炎 G.心筋疾患 H.肺性心	
7	/		I.先天性心疾患 J.動脈系 K.静脈系疾患 L.リンパ系疾患	
8	/	【血液・造血器系の疾患】 (病理学) (成人看護学4)	【血液・造血器系の疾患】 A.骨髄および血液疾患 B.リンパ系および脾臓の疾患	
9	/	血液の生理と造血のしくみ	A.血液の成分と機能 B.造血のしくみ	
10	/	検査・診断と症候・病態生理	A.病歴聴取と身体所見 B.検査	
11	/		C.症候とその病態生理	
12	/	疾患と治療の理解	A.赤血球の異常 B.白血球の異常	
13	/		C.造血器腫瘍	
14	/		D.出血性疾患	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進1 病理学 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学3 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学4 血液・造血器 医学書院				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
疾病治療論Ⅲ	講義	2年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的	呼吸器系、消化器系の解剖学の知識を基に、それぞれの臓器に生じる疾病の成り立ちと検査、治療について学ぶ。			
目標	1. 呼吸器系、消化器系、に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療、の基礎的知識を理解する。 2. 歯・口腔の疾患を持つ人へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【呼吸器系の疾患Ⅰ】 (病理学) (成人看護学2) 症状とその病態生理	【呼吸器系の疾患】 A. 鼻腔・咽頭・喉頭の疾患 B. 気管・気管支・肺の疾患 C. 胸膜と縦隔の疾患 ----- A. 自覚症状 B. 他覚症状	
2	/	検査と治療・処置	A. 診察と診断の流れ B. 検査	
3	/		C. 治療・処置	
4	/		A. 感染症 B. 間質性肺炎 C. 気道疾患 D. 肺血栓塞栓症	
5	/	呼吸器系の疾患	E. 呼吸不全 F. 呼吸調節に関する疾患 G. 肺腫瘍	
6	/		H. 肺・肺血管の形成異常 I. 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 J. 肺移植 K. 胸部外傷	
	/	【消化器系の疾患】 (病理学) (成人看護学5) 症状とその病態生理	【消化器系の疾患】 A. 口腔・食道の疾患 B. 胃の疾患 C. 腸・腹膜の疾患 D. 肝臓・胆管・胆嚢の疾患 E. 膵臓の疾患 ----- A. 嚥下困難 B. おくび・胸やけ C. 吐き気・嘔吐 D. 腹痛 E. 吐血・下血 F. 下痢 G. 便秘 H. 腹部膨満 I. 食欲不振と体重減少 J. 腹水 K. 横断 L. 意識障害	
8	/	検査と治療	A. 診察と診断の流れ B. 検査 ①糞便検査 ②肝機能検査 ③膵外分泌機能検査 ④超音波検査 ⑤内視鏡検査 ⑥肝生検 ⑦放射線検査 他	
9	/		C. 治療 ①薬物療法 ②栄養療法・食事療法 ③手術療法 ④放射線療法	
10	/	疾患の理解	A. 食道の疾患 B. 胃・十二指腸疾患 C. 腸および腹膜疾患	
11	/		D. 肝臓・胆嚢の疾患 E. 膵臓の疾患 F. 急性腹症 G. 腹部外傷	
12	/	【歯・口腔疾患】 (成人看護学15)	【歯・口腔器疾患】 ①歯の異常と疾患 ②口腔領域の炎症 【症状とその病態】 ①痛み ②腫脹 ③口腔出血 他	
13	/	検査と治療・処置	【検査と治療・処置】 ①口腔内検査 ②口腔外検査 ③画像検査 ④齶蝕の治療 ⑤歯周疾患の治療 ⑥口腔外科外来治療	
14	/	疾患の理解	A. 歯の異常と疾患 B. 口腔領域の疾患 C. 口腔粘膜の疾患 D. 口腔領域の嚢胞 E. 口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 F. 歯・顎骨の外傷 G. 口腔領域の先天異常および発育異常 他	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進1 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学5 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学15 歯・口腔 医学書院				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
疾病治療論Ⅳ	講義	2年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的	腎・泌尿器系、女性生殖器系、内分泌系の解剖学の知識を基に、それぞれの臓器に生じる疾病の成り立ちと検査、治療について学ぶ。			
目標	1. 腎・泌尿器・生殖器系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。 2. 乳腺、内分泌・代謝系の疾患を持つ人へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【腎・泌尿器疾患】 (病理学) (成人看護学8) ----- 症状と病態生理	【腎・泌尿器疾患】 A.腎泌尿器系の疾患 B.生殖器系の疾患 ----- A.尿の異常 B.排尿に関連した症状 C.浮腫	
2	/	症状と病態生理	D.脱水 E.循環器系の異常 F.血液の異常 G.尿毒症 H.疼痛 I.腫脹・腫瘤 J.その他の症状	
3	/	検査と治療・処置	A.診察 B.検査 C.治療と処置 D.排尿管理 E.透析療法 F.腎移植	
4	/	疾患の理解	A.腎不全とAKI・CKD B.ネフローゼ症候群 C.糸球体腎炎 D.全身性疾患による腎障害 E.尿細管質性腎炎 F.腎血管性病変	
5	/		G.尿細管機能異常 H.妊娠高血圧症候群 I.尿路・性器の感染症 J.尿路の通過障害と機能障害 K.尿路損傷および異物 L.尿路結石症 M.尿路・性器の腫瘍 N.発生・発育異常 O.男性不妊症・男性性機能障害	
6	/	【女性生殖器疾患】 (病理学) (成人看護学9) ----- 症状と病態生理	【女性生殖器の疾患】 ①性感染症 ②子宮頸管炎 ③子宮内膜症 ④子宮筋腫 ⑤子宮頸がん ----- ①ショック ②出血 ③帯下 ④疼痛 ⑤発熱	
7	/	症状と病態生理	⑥下腹部膨満 ⑦外陰部搔痒感 ⑧排尿障害 ⑨自律神経症状、不定愁訴 ⑩リンパ浮腫	
8	/	診察・検査と治療・処置	【診察・検査】 ①診察・治療器具 ②理学検査 ③病理検査 ④画像検査 他 【治療・処置】 ①膣洗浄 ②導尿 ③穿刺 ④レーザー治療 ⑤薬物療法 他	
9	/	疾患の理解	A.性分化疾患 B.臓器別疾患 ①外陰の疾患 ②膣の疾患 ③子宮の疾患 ④卵管の疾患 ⑤卵巣の疾患 ⑥骨盤内炎症性疾患	
10	/		C.機能的疾患 ①月経異常・月経随伴症状 ②更年期障害 ③不妊症 ④不育症 D.感染症	
11	/	【内分泌・代謝疾患】 (病理学) (成人看護学⑥)	【内分泌系の疾患】 ①ホルモンとホメオスタシス ②内分泌器官の疾患 ・下垂体疾患 ・甲状腺の疾患 ・副甲状腺 ・副腎の疾患 ・膵島の疾患	

12	/	症状とその病態生理	A.体重変化・身長の異常 B.容貌の変化 C.神経・筋症状 D.循環器症状 E.消化器症状 F.皮膚の変化 G.無月経	
13	/	検査 疾患の理解	A.内分泌疾患の検査 B.代謝疾患の検査 ----- 【疾患の理解】 A.内分泌疾患 ①視床下部一下垂体前葉系疾患 ②視床下部一下垂体後葉系疾患	
14	/	疾患の理解	③甲状腺疾患 ④副甲状腺疾患 ⑤副腎疾患 ⑥性腺疾患 ⑦膵・消化管神経内分泌腫瘍 ⑧多発性内分泌腫瘍症 ⑨内分泌疾患の救急治療	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進1 病理学 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学9 女性生殖器 医学書院				

授業科目名の区分		専門基礎科目		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
疾病治療論V	講義	2年次後期	1単位/30時間	外部講師
目的	脳・神経系、骨格・筋・運動器系、感覚器系の解剖学知識を基に、それぞれの臓器に生じる疾病の成り立ちと検査、治療について学ぶ。			
目標	1. 脳・神経系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。 2. 骨・関節系の疾患を持つ人へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な疾患の病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。 3. 眼・耳・鼻・皮膚系の疾患の疾患を持つ人へのアセスメントができる基礎的能力を習得するために、必要な病態、診断、治療の基礎的知識を理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時		内容	担当者
1	/	【脳・神経の疾患】 (病理学)(成人看護学)	【脳・神経の疾患】 A.脳、神経系の疾患 B.筋肉系の疾患	
		症状とその病態生理	A.脳・神経障害とは B.おもな症状とその病態生理	
		検査・診断と治療・処置	A.診断と診察のながれ B.検査 C.治療・処置	
2	/	検査・診断と治療・処置	A.診断と診察の流れ B.検査 C.処置・処置	
3	/	疾患の理解	A.脳疾患 B.脊髄疾患 C.末梢神経障害 D.筋疾患・神経筋接合部疾患 E.脱髄・変性疾患	
4	/		F.脳・神経系の感染症 G.中毒 H.てんかん I.認知症 J.内科疾患に伴う神経疾患	
5	/	運動器 (病理学より) (成人看護学)	【骨・関節系の疾患】 ①骨折 ②骨髄炎 ③骨粗鬆症 ④関節炎 ⑤椎間板ヘルニア ⑥骨肉腫 ⑦転移性骨腫瘍	
		症状とその病態生理	A.疼痛 B.形態の異常 C.関節運動の異常 D.神経の障害 E.跛行 F.筋肉の障害	
6	/	診断・検査と治療・処置	A.診察・診断の流れ B.検査 C.治療処置	
7	/	疾患の理解	[外因性の運動器疾患] A.骨折 B.脱臼 C.捻挫および打撲 D.神経の損傷 E.筋・腱・靭帯などの損傷	
			[内因性(非外傷性)の運動器疾患] A.先天性疾患 B.骨・関節の炎症性疾患 C.骨腫瘍および軟部腫瘍 D.代謝性骨疾患 E.腱の疾患 F.神経・筋疾患 G.上肢および上肢帯の疾患 H.脊椎の疾患 I.下肢および下肢帯の疾患	
9	/	【眼科の疾患】 (病理学)(成人看護学 13)	【眼の疾患】 ①緑内障 ②白内障 ③結膜の疾患 ④網膜の疾患	
		症状とその病態生理	A.視機能に関連した症状 B.視機能に関連しない症状	

10	/	検査と治療・処置 疾患の理解	【検査と治療・処置】 A.診察と診断の流れ B.検査 ----- A.機能の障害 B.部位別の疾患 C.外傷 D.全身疾患との関連	
11	/	【耳鼻咽喉の疾患】 (病理学)(成人看護学14) 症状とその病態生理 検査と治療	【耳の疾患】【鼻の疾患】【咽頭の疾患】 ----- A.耳に現れる症状と病態生理 B.鼻に現れる症状と病態生理 C.口腔・唾液腺・咽頭にあらわれる症状と病態生理 D.喉頭にあらわれる症状と病態生理 ----- 【検査と治療】 ①診察と診断の流れ ②主な検査 ③主な治療	
12	/	疾患の理解	A.耳疾患 ①外耳疾患 ②内耳疾患 ③内耳・後迷路性疾患 B.鼻の疾患 ①外鼻疾患 ②鼻腔疾患 ③副鼻腔疾患 C.口腔・咽頭疾患 ①口腔疾患 ②咽頭疾患 ③唾液腺疾患 ④喉頭疾患	
13	/	【皮膚の疾患】 (病理学) (成人看護学12) 症状とその病態生理 検査と治療・処置	B.皮膚の疾患 ①湿疹 ②蕁麻疹 ③座創 ④皮膚の腫瘍 ----- A.発疹 B.掻痒(かゆみ) C.皮膚の老化 ----- A.診察と診断の流れ B.検査 C.治療・処置	
14	/	疾患の理解	A.表在性皮膚疾患 B.真皮・皮下脂肪織および皮膚付属器の疾患 C.脈管系の異常による皮膚疾患 D.物理・科学的皮膚傷害 E.腫瘍および色素異常症 F.感染症 G.全身性疾患に伴う皮膚病変	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進1 病理学 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学10 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学13 眼 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院				

授業科目名の区分		専門基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
臨床治療論 (食事療法・リハビリテーション看護)	講義	2年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的	疾患に対する食事療法・リハビリテーション療法・救急医療を学ぶ。 臨床検査の種類を学び、看護の役割を理解する。			
目標	1. 栄養に関する基礎的知識と、疾病の回復を促進する食事療法がわかる。 2. さまざま領域のリハビリテーション療法を理解する。 3. 救命救急の基礎的知識を理解する。 4. 健康な人体の基礎的なデータが理解できる。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	／	栄養食事療法Ⅰ	【栄養食事療法とは】 A. 栄養食事療法の概要 B. 医療福祉の場における栄養食事療法 ※第18章 医療保険制度・介護保険制度と食事 【栄養食事療法の実際】 A. 病人食の分類と特徴 B. 栄養補給食	
2	／	栄養食事療法Ⅱ	【症状をもつ患者の栄養食事療法】 【呼吸器疾患患者の栄養食事療法】 【循環器疾患患者の栄養食事療法】 【消化器疾患患者の栄養食事療法】 【腎・泌尿器疾患患者の栄養食事療法】	
3	／	栄養食事療法Ⅲ	【栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法】 【血液疾患患者の栄養食事療法】 【アレルギー疾患患者の栄養食事療法】 【精神・神経疾患患者の栄養食事療法】 【熱傷・褥瘡の栄養食事療法】	
4	／	栄養食事療法Ⅳ	【術前・術後の栄養管理】 【がん患者の栄養食事療法】 【妊産婦・更年期女性の栄養食事療法】 【小児の栄養食事療法】 【高齢者の栄養食事療法】	
5	／	リハビリテーション看護Ⅰ	【リハビリテーション総論】 A. リハビリテーションの概念 B. リハビリテーションの領域 C. チームアプローチとしてのリハビリテーション 【リハビリテーション看護の概要】 A. リハビリテーション看護の歴史的背景 B. リハビリテーション看護の定義と役割 C. リハビリテーション看護の実践の場	
6	／	リハビリテーション看護Ⅱ	【リハビリテーション看護の対象】 A. 障害の概念 B. 障害を持つ人の法的定義 C. 障害者の実態 【リハビリテーション看護に関連する法制度】 A. わが国の障害者施策の変遷 B. 障害者を守り支える法律・サービス 【ステージ別リハビリテーション看護】	
7	／	リハビリテーション看護Ⅲ	【リハビリテーション看護を展開するための基盤】 A. リハビリテーションを阻害する要因と促進する要因 B. リハビリテーション看護の対象理解を深めるための理論・概念 C. 障害を持つ人の心理的問題 D. 療養生活を支える家族への援助 他	

8	/	リハビリテーション看護Ⅳ	【生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護】 A.運動機能障害 B.摂食嚥下障害 C.排泄機能障害 D.呼吸機能障害 他 【これからのリハビリテーション看護】 A.地域リハビリテーション B.がんリハビリテーション看護 C.災害時リハビリテーション看護 他	
9	/	救急医療Ⅰ	【救急看護の概念】 A.救急看護とは B.救急医療体制 C.救急看護の場 D.救急看護と法的・倫理的側面 【救急看護の対象の理解】 A.救急看護の特徴 B.救急患者家族の特徴	
10	/	救急医療Ⅱ	【救急看護体制と看護の展開】 A.期・第2次救急医療における対応 B.第3次救急医療における対応 C.院内急変時における対応 D.在宅療養における対応 E.学校保健における対応 F.災害時における対応	
11	/	救急医療Ⅲ	【救急患者の観察とアセスメント】 A.周囲の状況確認と感染予防対策 B.全身と外観の観察とアセスメント C.緊急検査 他 【主要病態に対する救急処置と看護】 A.心肺停止状態への対応 B.意識障害への対応 C.呼吸障害への対応 D.ショック・循環障害への対応 E.急性腹症への対応 他 【救急時の看護技術】 【救急時に使用される医薬品】	
12	/	臨床検査Ⅰ	【臨床検査とその役割】 A.診療における臨床検査の役割 B.臨床検査の種類 C.臨床検査の場面と目的 D.臨床検査結果の評価 【臨床検査の流れと看護師の役割】 A.臨床検査の流れ B.臨床検査の準備 C.検査を受ける患者への説明と注意 D.検体の採取方法、保存・移送法 E.検査に伴う危険とその防止	
13	/	臨床検査Ⅱ	【主な臨床検査】 ・一般検査 ・血液学的監査 ・化学検査 ・免疫・血清学的検査 ・内分泌学的検査 ・微生物学的検査 ・病理学的検査 ・生体検査 ・臨床現場即時検査(POCT)	
14	/	臨床検査Ⅲ		
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院				
備考:総合診療医				

授業科目名の区分		専門基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
薬理学 I	講義	2年次前期	1単位/15時間	外部講師
目的	薬物の特徴・作用機序・人体への影響・薬物の取り扱いや管理について学ぶ。			
目標	1. 薬理学の基本的知識を理解し、発達段階・性差による人体への影響を理解する。 2. 薬と法律の関係について理解する。 3. 治療薬の種類・作用・副作用を理解する。 4. 治療薬による生体反応を理解する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【薬理学総論】 薬理学を学ぶにあたって	A.薬物治療と看護 ①薬物とは何か ②薬物の使用目的 ③チームによる薬物治療と看護師の役割 B.薬理学とは何か ①薬理学の歴史 ②現代の薬理学が扱う分野	
2	/	薬理学の基礎知識	A.薬が作用するしくみ(薬力学) B.薬の体内動態(薬物動態学) C.薬物相互作用 D.薬効の個人差に影響する因子	
3	/	薬理学の基礎知識	E.薬物使用の有益性と危険性 F.薬と法律 G.物質としての薬物の分類	
4	/	【薬理学各論】 抗感染症薬	A.感染症薬に関する基礎事項 B.抗菌薬 C.抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬 D.感染症の治療における問題点	
5	/	抗がん薬	A.がん治療に関する基礎事項 B.抗がん薬の種類	
		免疫治療薬	A.免疫系の基礎知識 B.免疫抑制薬 C.免疫増強薬・予防接種薬	
6	/	抗アレルギー薬・抗炎症薬	A.抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬 B.抗炎症薬 C.関節リウマチ治療薬 D.痛風・高尿酸血症治療薬	
7	/	抹消での神経活動に作用する薬物	A.神経系による情報伝達と薬物 B.交感神経作用薬 C.副交感神経作用薬 D.筋弛緩薬・局所麻酔薬	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学 医学書院				
備考: 大学講師				

授業科目名の区分		専門基礎分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
薬理学Ⅱ	講義	2年次前期	1単位/15時間	外部講師
目的	薬物療法を受けている対象に、適切な看護の臨床判断をするために、各臓器に作用する薬物の作用・副作用について学ぶ。			
目標	1. 疾患ごとの治療薬の種類・作用・副作用を理解する 2. 治療薬による生体反応を理解する 3. 理解された薬理学を看護に活かす方法を考える 4. 漢方医学の基礎的知識がわかる。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【薬理学各論】 抹消での神経活動に作用する薬物	A.神経系による情報伝達と薬物 B.交感神経作用薬 C.副交感神経作用薬 D.筋弛緩薬・局所麻酔薬	
2	/	中枢神経系に作用する薬物	A.中枢神経系のはたらきと薬物 B.全身麻酔薬 C.催眠薬・抗不安薬 D.抗精神病薬 E.抗うつ薬・気分安定薬 F.パーキンソン症候群治療薬 G.抗てんかん薬 H.麻薬性鎮痛薬 I.片頭痛治療薬	
3	/	循環器系に作用する薬物	A.降圧薬 B.狭心症治療薬 C.心不全治療薬 D.抗不整脈薬 E.利尿薬 F.脂質異常症治療薬 G.血液凝固系・線溶系に作用する薬物 H.血液に作用する薬物	
4	/	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物 物質代謝に作用する薬物	A.呼吸器系に作用する薬物 B.消化器系に作用する薬物 C.生殖器・泌尿器系に作用する薬物 A.ホルモンとホルモン拮抗薬 B.治療薬としてのビタミン	
5	/	皮膚科用薬・眼科用薬 救急の際に使用される薬物	A.皮膚に使用する薬物 B.眼科用薬 A.救急に用いられる薬物 B.急性中毒に対する薬物	
6	/	漢方薬 消毒薬	A.漢方医学の基礎知識 B.漢方薬各論 A.消毒薬とは B.消毒薬の適応	
7	/	輸液製剤・輸液剤	A.輸液製剤 B.輸血剤	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学 医学書院				
備考: 大学講師				

授業科目名の区分		専門基礎分野:健康支援と社会保障制度		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
地域看護論	講義	1年次後期	1単位/15時間	専任教員
目的	人々の生活の質の向上と、それを支える健康で安全な地域社会の構築に寄与するために、現代の地域が抱えている問題点や課題を学習し、地域看護についての基礎知識を学ぶ。			
目標	1. 地域社会を対象としたネットワークの必要性がわかる。 2. 地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病の予防、回復、障害のための看護活動がわかる。 3. 在宅看護が提供される場とその広がりについて理解する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	地域における暮らしを支える看護	A.暮らしを支える地域・在宅看護 B.暮らしの環境を整える看護 C.広がる看護の対象と提供方法	
2	/		D.地域における家族への看護 E.地域におけるライフステージに応じた看護	
3	/		F.地域での暮らしにおけるリスクの理解 G.地域での暮らしにおける災害対策	
4	/	地域・在宅看護実践の場と連携	A.さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし B.おもな地域・在宅看護実践の場	
5	/		C.地域・在宅看護における多職種連携 ①医療専門職との連携 ②福祉専門職との連携 ③介護支援専門職との連携 ④多職種からのネットワークづくり	
6	/	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	A.介護保険・医療保険制度 B.地域・在宅看護にかかわる医療提供体制	
7	/		C.訪問看護の制度 D.地域保健にかかわる制度 E.高齢者に関する制度 F.障害者・難病に関する法制度 G.公費負担医療に関する法制度 H.権利保障に関連する制度	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院				
備考:成人看護・老年看護・在宅看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門基礎分野*健康支援と社会保障制度		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
公衆衛生学	講義	2年次前期	1単位/15時間	外部講師
目的	公衆衛生の仕組みを学び、環境と健康の関わり、保健活動について理解する。 対象者中心の安全で安楽な看護を提供するために、対象者を取り巻く人々、関係する組織や行政に目を向けるための基礎的知識を学ぶ。			
目標	1. 公衆衛生の概念と基本的な内容を理解することができる。 2. 看護専門職の役割を認識し、多職種と協働できる。 3. 地域・学校・職域における公衆衛生活動について理解できる。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	序章 公衆衛生を学ぶにあたって	A.みんなの健康 B.「ひとり」から「みんな」の看護へ C.「みんなの健康」をどうまもるか	
		公衆衛生のエッセンス	A.公衆衛生とはなにか B.世界の公衆衛生の歴史 C.日本における公衆衛生 D.戦後の展開 E.公衆衛生を看護に取り込む力	
		公衆衛生の活動対象	A.自分の生活と健康に関する社会集団 B.看護職の公的責任と活動対象 C.社会集団をとらえる視座 D.社会集団の中にある特定集団	
2	/	公衆衛生のしくみ	A.政策展開 B.国と地方自治体の役割 C.専門職のはたらき D.多職種との協同 E.住民との協同	
3	/	集団の健康を捉えるための手法 疫学・保健統計	A.集団として人々の健康を守る B.公衆衛生の場での疫学 C.公衆衛生の場での疫学(原因を分析する) D.公衆衛生の場での疫学(対策を計画・実施する) E.エビデンスを使う、つくる	
4	/	環境と健康	A.環境と健康 B.地球規模の環境と健康 C.身のまわりの環境と健康 D.日本の環境行政	
		感染症とその予防対策	A.感染症とその予防の基礎知識 B.我が国の感染症対策 C.院内感染とその予防 D.公衆衛生上の重要な感染症とその対策	
5	/	国際保健	A.世界との出会い B.経済格差と健康格差 C.健康格差の解消のために D.国際保健の担い手 E.国際保健の共通目標 F.国際保健と日本 G.正解のない課題を前にして	
		地域における公衆衛生の 実践	A.公衆衛生看護とは B.母子保健 C.成人保健 D.高齢者保健 E.精神保健 F.歯科保健 G.障害者保健・難病保健	
6	/	学校と健康	A.学校における保険とは B.学校保健の展開 C.特別な支援を必要とする子供たち	
7	/	職場と健康健康	A.職場における健康 B.職場における健康をまもるしくみ C.産業保健活動の展開 D.産業保険における今後の課題と新たな動き	
		危機管理・災害管理	A.健康危機管理 B.災害保険	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院				
備考:医学博士				

授業科目名の区分		専門基礎分野:健康支援と社会保障制度		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
健康増進学	講義・演習	2年次前期	1/15時間	専任教員
目的	健康増進を進めるの知識を幅広い学問体系をもとに学ぶ。			
目標	1. 地域で暮らす人々の生活課題に興味を持ち、理解する。 2. ライフステージに応じた「生活」「健康」を知り、維持増進する方法が考えられる。 3. 幅広い視野を持ち、生活課題対応能力をつける。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	授業概要オリエンテーション・健康と生活	授業概要オリエンテーション 国際社会の観点で考える。 健康とは	
2	/	消費者市民	今、日本で求められていることを考える。 スポーツレクリエーションを考える	
3	/	環境と習慣と健康	自分の生活から考える ・一日のライフスタイルの分析	
4	/	食生活と健康 衣生活と休養	何をどれだけ食べるとよいかを考える。 着心地を空気から考える	
5	/	現代の貧困 ネットとスマホ	世界の目で日本の貧困を考える。 身近な危険を考える。	
6	/	社会とレクリエーション	スポーツレクリエーションを通じた元気づくり	
7	/	社会とレクリエーション	スポーツレクリエーションを通じた元気づくり	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:				
備考:看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門基礎分野:健康支援と社会保障制度		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
社会福祉論	講義	2年次後期	1単位/15時間	外部講師
目的	社会保険制度・公的扶助・障害者福祉・児童福祉・高齢者福祉に関する知識を身に付け、福祉・保健・医療の諸問題を判断する力を獲得する。			
目標	1. 社会福祉の歴史と制度について基本的事項を理解する。 2. 医療保障、介護保障、所得補償、公的扶助について理解する。 3. 社会福祉の各分野とサービスについて理解する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	社会保障制度と社会福祉 現代社会の変化と 社会保障・社会福祉の動向	A. 社会保障制度 B. 社会福祉の法制度 ----- A. 現代社会の変化 B. 社会保障・社会福祉の動向	
2	/	医療保障	A. 医療保障制度の沿革 B. 医療保障制度の構造と体系 C. 健康保険と国民健康保険 D. 高齢者医療制度 E. 保険診療の仕組み F. 公費負担診療 G. 国民医療費	
3	/	介護保障	A. 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 B. 介護保険制度の概要 C. 介護保険制度の課題と展望	
4	/	所得保障 公的扶助	A. 所得保障制度のしくみ B. 年金保険制度 C. 社会手当 D. 労働保険制度 A. 貧困・低所得問題と公的扶助制度 B. 生活保護制度のしくみ C. 低所得者対策 ④近年の動向	
5	/	社会福祉の分野とサービス	A. 高齢者福祉 B. 障害者福祉 C. 児童家庭福祉	
6	/	社会福祉実践と医療・看護	A. 社会福祉援助とは B. 個別援助技術(ケースワーク) C. 集団援助技術(グループワーク) D. 間接援助技術と関連援助技術 E. 社会福祉援助の検討課題 F. 医療・看護・福祉の連携の重要性 G. 社会福祉実践と医療・看護との連携 H. 連携の場面とその方法	
7	/	社会福祉の歴史	A. 社会福祉の歴史の見方 B. イギリスの社会福祉の歴史 C. 日本の社会福祉の歴史	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉 医学書院				
備考:				

授業科目名の区分		専門基礎分野:健康支援と社会保障制度		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
癒しの科学	講義・演習	3年次前期	1単位/15時間	専任教員
目的	ケアの隣接領域である「癒し」について幅広く学ぶ。看護職に関係の深い「癒し」について科学的な視点から基礎知識を習得する。			
目標	1. 癒しの概念を理解し、看護に活かせる方法を知る。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容		担当者
1	/	「癒し」の概念 「癒し」と看護	「癒し」とは。「癒し」と看護	
2	/	「癒し」のメカニズム	自律神経系・内分泌系のはたらき 五感への働きかけ	
3	/	「癒し」の種類・方法	アロマセラピー・ヒーリング・音楽療法・タッチング 他	
4	/	「癒し」の体験	ヒーリング	
5	/	「癒し」の体験	アロマセラピー	
6	/	「癒し」の実践	リフレクソロジー	
7	/	「癒し」の実践	整膚	
8	/	まとめ	「癒し」を看護に活かすには。	
履修者へのコメント:				
使用テキスト:(医学書院)				
備考:				

授業科目名の区分		専門基礎分野:健康支援と社会保障制度		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
看護関連法令	講義	3年次前期	1単位/15時間	外部講師
目的	法律が医療の世界にどのように関わっているかという視点から看護職に関係の深い法令の基礎知識を習得する。			
目標	1. 保健医療福祉に関する主要な法とその概要について理解する。 2. 看護法・医事法・保健衛生法・薬務法などについて基本的事項を理解する			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	法の概念	A. 法の概念 B. 衛生法 C. 厚生行政のしくみ	
2	/	看護法	A. 保健師助産師看護師法 B. 看護師等の人材確保に関する法律	
3	/	医事法	A. 医療法 B. 医療関係資格法 C. 医療を支える法	
4	/	保健衛生法	A. 共通保健法 ・地域保健法 ・健康増進法 B. 分野別保健法 C. 感染症に関する法 D. 食品に関する法 E. 環境衛生法	
5	/	薬務法	A. 薬事一般に関する法律 B. 人などの組織を用いた医療関連法 C. 薬害被害者の救済など D. 麻薬・毒物などの法	
6	/	社会保険法 福祉法	A医療・介護の費用保障 B. 年金 A. 福祉の基盤 B. 児童分野 C. 高齢分野 D. 障害分野 E. 手当	
7	/	労働法と社会基盤整備 環境法	A. 労働法 B. 社会基盤整備など C. 環境保全の基本法 D. 公害防止の法 E. 自然保護法	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度4 看護関連法令 医学書院				
備考:専門学校講師				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
看護学概論 I	講義	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	看護の歴史の変遷や理論、看護活動の場について学ぶ。保健医療チームの一員として、人間の生活と健康を関連させ、看護の役割、機能と活動について学ぶ。			
目標	1. 看護の概念や歴史の変遷や看護論を通して理解できる 2. 看護の対象を生活者として健康や環境と関連づけ総合的に理解する			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	看護とは	A. 看護の本質 B. 看護の役割と機能	
2	/		C. 看護の継続性と連携	
3	/	看護の対象の理解	A. 人間の「こころ」と「からだ」を知ることの意味	
4	/		B. 生涯発達しつづける存在としての人間の理解 C. 人間の「暮らし」の理解	
5	/		A. 健康のとらえ方	
6	/	国民の健康状態と生活	B. 国民の健康状態 C. 国民のライフサイクル	
7	/		A. 職業としての看護 B. 看護職の資格・養成制度・就業状況	
8	/	看護の提供者	C. 看護職者の継続教育とキャリア開発 D. 看護職の養成制度の課題	
9	/		A. 現代社会と倫理 B. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	
10	/	看護における倫理	C. 看護実践における倫理問題への取り組み	
11	/		A. サービスとしての看護 B. 看護サービス提供の場	
12	/	看護の提供のしくみ	C. 看護をめぐる制度と政策 D. 看護サービスの管理 E. 医療安全と医療の質保証	
13	/		A. 国際化と看護	
14	/	広がる看護の活動領域	B. 災害時における看護	
15	/		テスト	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 基礎看護学1 看護学概論 医学書院				
備考: 看護管理経験者・学科長 看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
ヘルスアセスメント	講義・演習	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	看護技術は何かを考え、看護技術の特徴、範囲、要素について学ぶ。 看護実践のあらゆる場面において基盤となる共通技術のコミュニケーション、ヘルスアセスメント、学習支援について科学的根拠に基づいて学ぶ。			
目標	1. あらゆる場面に共通するコミュニケーションについて理解し、活用できる。 2. あらゆる場面に共通するヘルスアセスメントについて理解し、活用できる。 3. あらゆる場面に共通する学習支援について理解し、活用できる。			
評価方法	1. 筆記試験(80%) 2. 看護技術試験(20%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	看護技術を学ぶにあたって	A.技術とはなにか B.看護技術の特徴 C.看護技術の範囲 D.看護技術を適切に実践するための要素 E.看護技術の発展と習得のために	
2	/	コミュニケーション	A.コミュニケーションの意義と目的 ・コミュニケーションとは ・看護、医療におけるコミュニケーション B.コミュニケーションの構成要素と成立過程 ・コミュニケーションの手段 ・構成要素と成立過程 C.関係構築のためのコミュニケーションの基本 ・接近的コミュニケーションの原理 ・接近的行動と非接近的行動	
3	/	コミュニケーション	D.効果的なコミュニケーションの実際 ・傾聴の技術 ・情報収集の技術 ・説明の技術 ・アサーティブネス E.コミュニケーション障害への対応 ・コミュニケーション障害がある人の特徴 ・言語的コミュニケーションに必要な身体機能 ・コミュニケーション障害がある人への対応 F.オンラインコミュニケーション	
4	/	ヘルスアセスメント	A.ヘルスアセスメントとは ・ヘルスアセスメントが持つ意味 ・ヘルスアセスメントにおける観察 ・ヘルスアセスメントにおける重要な視点 B.健康歴とセルフケア能力のアセスメント ・問診(面接)の技術 ・健康歴聴取の目的 ・健康歴聴取の実際 ・セルフケア能力のアセスメント ・情報の整理	
5	/	ヘルスアセスメント バイタルサインの測定方法	C.全体の概観 ・フィジカルアセスメントに必要な技術 ・全身状態・全体印象の把握 ・バイタルサインの観察とアセスメント ・計測	
6	/	ヘルスアセスメント 演習:バイタルサイン測定	バイタルサインの観察とアセスメント ①体温 ②脈拍 ③呼吸 ④血圧	
7	/	ヘルスアセスメント 演習:バイタルサイン測定	バイタルサインの観察とアセスメント ①体温 ②脈拍 ③呼吸 ④血圧	
8	/	バイタルサイン測定 演習:バイタルサイン測定	バイタルサインの観察とアセスメント ①体温 ②脈拍 ③呼吸 ④血圧	
9	/	バイタルサイン測定演習	看護技術試験(バイタルサイン測定)	

10	/	ヘルスアセスメント ・系統別フィジカルアセスメント	D.系統別フィジカルアセスメント ①ケアにつなげるフィジカルアセスメント ②呼吸器系のフィジカルアセスメント ③循環器系のフィジカルアセスメント ④乳房・腋窩のフィジカルアセスメント ⑤腹部のフィジカルアセスメント	
11	/	ヘルスアセスメント ・系統的フィジカルアセスメント 学習支援 学習支援の実際 (夏期休暇中の課題)	⑥筋・骨格系のフィジカルアセスメント ⑦神経系のフィジカルアセスメント ⑧頭頸部と感覚器(眼・耳・鼻・口)のフィジカルアセスメント ⑨外皮系(皮膚・爪)のフィジカルアセスメント E.心理・社会状態のアセスメント 事例提示 個人指導パンフレット	
12	/	学習支援 講義	A.学習支援の対象者と看護の役割 ①学習支援の対象者とそのニーズ ②看護役割 B.学習の基礎知識 ①学習の定義 ②学習のモデル ③学習に関する理論 ④学習に影響する因子 C.学習支援の基礎知識 ①学習支援の基本的な考え方 ②さまざまな場における学習支援 D.学習支援の技術 ①学習支援の進め方 ②学習支援の方法 ③教材 E.学習支援の実際 ①患者個人を対象とした学習支援 ②患者とその家族を対象とした学習支援	
13	/	学習支援 グループワーク	個人ワークした課題をグループでまとめる	
14	/	学習支援 発表	グループ発表	
15	/	バイタルアサイン測定技術試験		
	/	筆記試験		
履修者へのコメント:自己学習の時間を有効に活用してください。 看護技術の試験および臨地実習に向けて、技術練習をしてください。				
使用テキスト:系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術 I 医学書院 看護が見えるVOL.3 メディックメディア				
備考:演習参加時の注意点 1. 演習は実習室、指定された服装で参加してください。 2. 服装や髪が整っていなければ演習に参加できないこともあります。 3. 個人ごとに購入した演習物品は忘れないで持参してください。 ※担当教員:看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論 I	講義・演習	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	援助の共通基本技術の意義と方法を学び、関連する看護技術を科学的根拠に基づいて習得する。			
目標	1. あらゆる場面において共通する感染防止の技術について理解し活用する。 2. 活動と休息援助技術について理解し、活用できる。 3. あらゆる場面に共通する安全確保の技術について理解し、活用できる。 4. 苦痛の緩和・安楽の確保の援助技術について理解し、活用できる。			
評価方法	筆記試験および技術(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	感染防止技術 I	A.感染とその予防の基礎知識 B.標準予防策(スタンダードプリコーション) C.感染経路別予防策	
2	/	感染防止技術 II 【演習】	【演習】 日常的手洗い・衛生的手洗い ガウンテクニック	
3	/	感染防止技術 III	D.洗浄・消毒・滅菌 E.無菌操作 F.感染性破棄物の取り扱い G.針刺し防止策 H.医療施設における感染管理	
4	/	感染防止技術 IV 【演習】	【演習】 無菌操作・滅菌手袋の着用	
5	/	活動・休息援助技術 I	A.基本的活動の援助 ①基本的活動の基礎知識 ②体位	
6	/	活動・休息援助技術 II	③移動一体位変換・歩行・移乗・移送	
7	/	活動・休息援助技術 III 【演習】	【演習】 ・体位変換	
8	/	活動・休息援助技術 IV 【演習】	【演習】 ・車いす移乗と移送 ・ストレッチャー	
9	/	活動・休息援助技術 V	B.睡眠・休息の援助 ①援助の基礎知識 ②睡眠・休息の援助	
10	/	安全確保の技術 I	A.安全確保の基礎技術 B.誤嚥防止 C.チューブ類の事故防止	
11	/	安全確保の技術 II	D.患者誤認防止 E.転倒・転落防止 F.薬剤・放射線曝露の防止	
12	/	苦痛の緩和・安楽確保の 技術 I	A.体位保持(ポジショニング) ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
13	/	苦痛の緩和・安楽確保の 技術 II 【演習】	B.罨法 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 C.身体ケアを通じてもたらされる安楽 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
14	/	苦痛の緩和・安楽確保の 技術 III 【演習】	【演習】温罨法・冷罨法	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術 I 医学書院 専門 基礎看護学3 基礎看護技術 II 医学書院 看護が見えるVoL.1 看護が見えるVoL2 メディックメディア				
備考:看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅱ	講義・演習	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	生活援助技術の意義と方法を学び関連する看護技術を習得する。			
目標	1. 環境調整技術について理解し、活用できる。 2. 清潔・衣生活援助技術について理解し、活用できる。			
評価方法	筆記試験および技術(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	環境調整技術Ⅰ	A.援助の基礎知識 ①療養生活の環境	
2	/	環境調整技術Ⅱ	②病室の環境のアセスメントと調整 ・病室、病床の選択 ・温度 ・湿度 ・光と音 ・色彩 ・空気の清浄性 ・人的環境	
3	/	環境調整技術Ⅲ	B.援助の実際 ①ベッド周囲の環境整備 ②病床を整える ・マットレス、枕の条件 ・ベッドメイキング ・リネン交換	
4	/	環境調整技術Ⅳ 【演習】	【演習】ベッド周囲の環境整備ー病室、病床の選択 リネン類の種類、シーツのたたみ方	
5	/	環境調整技術Ⅴ 【演習】	【演習】ベッドメイキング	
6	/	環境調整技術Ⅵ 【演習】	【演習】ベッドメイキング	
7	/	環境調整技術Ⅶ 【実技チェック】	【演習】技術チェック 〈しわのない、くずれにくいベッドをつくる〉	
8	/	清潔・衣生活援助技術Ⅰ	A.清潔の援助 ①清潔の援助の基礎知識 ②清潔の援助の実際	
9	/	清潔・衣生活援助技術Ⅱ	B.病床での衣生活の援助 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
10	/	清潔・衣生活援助技術Ⅲ 【演習】	【演習】清潔の援助の実際 ・全身清拭 ・病衣の交換	
11	/	清潔・衣生活援助技術Ⅳ 【演習】	【演習】清潔援助の実際 ・整容 ・洗髪	
12	/	清潔・衣生活援助技術Ⅴ 【演習】	【演習】清潔の援助の実際 ・足浴 ・手浴	
13	/	清潔・衣生活援助技術Ⅵ 【演習】	【演習】清潔の援助の実際 ・陰部洗浄	
14	/	清潔・衣生活援助技術Ⅶ 【実技テスト】	【実技テスト】 〈全身清拭および病衣交換〉	
15	/	テスト	筆記試験	
履修者へのコメント:ピンポイントの実技テスト実施。自己学習をすること。 自己学習時間を使い、実技テストに備えること。				
使用テキスト:系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護が見えるVoL.1 看護が見えるVoL2 メディックメディア				
備考:看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅲ	講義・演習	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	生活援助技術の意義と方法を学び、関連する看護技術を科学的根拠に基づいて習得する。			
目標	1. 食事援助の技術について、理解し、活用できる。 2. 排泄の援助技術について理解し、活用できる。			
評価方法	筆記試験および技術(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	食事援助技術Ⅰ	A.食事援助の基礎知識 ①栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント ②医療施設で提供される食事の種類と形態	
2	/	食事援助技術Ⅱ	B.食事摂取の介助 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
3	/	食事援助技術Ⅲ	C.摂食・嚥下訓練 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
4	/	食事援助技術Ⅳ	D.非経口的栄養摂取の援助 ①経管栄養法 ②中心静脈栄養法	
5	/	食事援助技術Ⅴ 【演習】	【演習】食事援助 ・上肢に機能障害のある対象 ・視力障害のある対象	
6	/	排泄援助技術Ⅰ	A.自然排尿および自然排便の介助 ①自然排尿および自然排便の基礎知識 ・排泄の意義 ・排泄器官の機能と排泄のメカニズム	
7	/	排泄援助技術Ⅱ	①自然排尿および自然排便の介助の実際 アセスメントー患者の状態に応じた援助を決定するために ・排尿のアセスメント ・排便のアセスメント ・移動動作のアセスメント ・心理、社会的状態のアセスメント	
8	/	排泄援助技術Ⅲ	②自然排尿および自然排便の介助の実際 ・トイレにおける排泄介助 ・床上排泄 おむつによる排泄	
9	/	排泄援助技術Ⅳ 【演習】	【演習】床上排泄援助・ポータブルトイレ援助	
10	/	排泄援助技術Ⅴ 【演習】	【演習】おむつ交換	
11	/	排泄援助技術Ⅵ	B.導尿 ①一時的導尿 ②持続的導尿	
12	/	排泄援助技術Ⅶ	C.排便を促す援助 ①排便を促す援助の基礎知識 ②浣腸 ③摘便	
13	/	排泄援助技術Ⅷ 【演習】	【演習】グリセリン浣腸	
14	/	排泄援助技術Ⅸ	D.ストーマケア ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護が見えるVoL.1 看護が見えるVoL2 メディックメディア				
備考: 看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅳ	講義・演習	1年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	診療の補助技術の意義と方法を学び、関連する看護技術を科学的根拠に基づいて習得する。			
目標	1. 呼吸・循環を整える技術について理解し、活用できる。 2. 創傷管理技術について理解し、活用できる。 3. 救急救命処置技術について理解し、活用できる。 4. あらゆる場面に共通する死の看取りの援助について理解し、活用できる。			
評価方法	筆記試験および技術(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	呼吸・循環を整える技術Ⅰ	A.酸素療法 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 B.排痰ケア ①排痰ケアの基礎知識 ②援助の実際	
2	/	呼吸・循環を整える技術Ⅱ	C.胸腔ドレナージ ①援助の基礎知識 ②援助の実際 D.吸入 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
3	/	呼吸・循環を整える技術Ⅲ	E.人工呼吸療法 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 F.体温管理の技術 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 G.末梢循環促進ケア ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
4	/	呼吸・循環を整える技術Ⅳ 【演習】	【演習】酸素吸入技術	
5	/	呼吸・循環を整える技術Ⅴ 【演習】	【演習】口腔・鼻腔内吸引の技術	
6	/	創傷管理技術Ⅰ	A.創傷管理の基礎知識 ①創傷 ②創傷治癒のための環境づくり	
7	/	創傷管理技術Ⅱ	B創傷処置 ①術後一次縫合創とドレーン創の処置 ②創洗浄と創保護 ③包帯法	
8	/	創傷管理技術Ⅲ	C.褥瘡予防 ①援助の基礎知識 ②援助の実際(耐圧分散ケア)	
9	/	創傷管理技術Ⅳ 【演習】	【演習】ドレッシング材の貼付 包帯法 弾性ストッキング着用	
10	/	救命救急処置技術Ⅰ	A.救命救急処置の基礎知識 ①救急対応の考え方 ②救急・急変時における初期対応 ③トリアージ	
11	/	救命救急処置技術Ⅱ	B.心肺蘇生法 ①心肺蘇生法の基礎知識 ②一次救命処置の実際 ③小児、乳児の心肺蘇生法 ④二次救命処置について	
12	/	救命救急処置技術Ⅲ	C.止血法 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 D.院内急変時の対応 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
13	/	死の看取りの援助Ⅰ	A.死にゆく人と周囲の人々へのケア B.我が国の風習に根づく死後の処置の在り方 ①日本文化のなかの葬送儀礼 ②葬送儀礼と看護	
14	/	死の看取りの援助Ⅱ	C.死後の処置 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護が見えるVoL.1 看護が見えるVoL2 メディックメディア				
備考:看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	講義形態	開講時期	単位/時間	担当教員
基礎看護学方法論Ⅴ	講義・演習	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的	診療の補助技術の意義と方法を学び、関連する看護技術を科学的根拠に基づいて習得する。			
目標	1. 与薬の技術について理解し活用できる 2. 症状・生体機能管理技術について理解し活用できる 3. 診察・検査・処置の介助技術について理解し活用できる			
評価方法	筆記試験および技術(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	与薬の技術Ⅰ	A. 与薬の基礎知識 ①薬物の基本的性質 ②看護師の役割 B. 経口与薬・口腔内与薬 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 C. 吸入 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
2	/	与薬の技術Ⅱ	D. 点眼与薬 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 E. 点鼻薬与薬 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
3	/	与薬の技術Ⅲ	F. 経皮的与薬 ①援助の基礎知識 ②援助の実際 G. 直腸内与薬 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
4	/	与薬の技術 【演習】	【演習】 経口与薬および点眼薬与薬	
5	/	与薬の技術Ⅳ	H. 注射 ①注射の基礎知識 ②注射の実施法 ・皮下注射 ・皮内注射 ・筋肉内注射 ・静脈内注射 ・点滴内静脈内注射	
6	/	与薬の技術Ⅴ	I. 輸血管理 ①援助の基礎知識 ②援助の実際	
7	/	与薬の技術 【演習】	【演習】 皮下注射 筋肉内注射 点滴静脈内注射の管理	
8	/	症状・生体機能管理 技術Ⅰ	A. 症状・生体機能管理技術の基礎知識 B. 検体検査 ①血液検査 ②尿検査 ③便検査 ④喀痰検査 C. 生体情報のモニタリング ①心電図モニター ②Spo2	
9	/	症状・生体機能管理 技術Ⅱ	C. 生体情報のモニタリング ③ 血管留置カテーテルモニター ・動脈圧 ・中心静脈圧 ・肺動脈圧	
10	/	診察・検査・処置の介助 技術Ⅰ	A. 診察の介助 B. 検査・処置の介助 ・エックス線検査 ・コンピュータ断層撮影(CT) ・磁気共鳴画像(MRI) ・内視鏡検査	
11	/	診察・検査・処置の介助 技術Ⅱ	B. 検査・処置の介助 ・超音波検査(エコー検査) ・心電図検査 ・肺機能検査 ・核医学検査	
12	/	診察・検査・処置の介助 技術Ⅲ	B. 検査・処置の介助 ・穿刺(胸腔穿刺・腹腔穿刺) ・穿刺(腰椎穿刺・骨髄穿刺)	
13	/	診察・検査・処置の介助 技術Ⅳ	B. 検査・処置の介助 ①血液検査(静脈血採血の基礎知識、援助の実際)	
14	/	診察・検査・処置の介助 技術 【演習】	【演習】採血	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護が見えるVoL1 看護が見えるVoL2 メディックメディア				
備考: 看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
シミュレーション技術Ⅰ	講義・演習	1年次前期	1単位/15時間	専任教員
目的	基礎看護学実習Ⅰ-1の実習に向けて、今まで学んだ科目の内容を確認し、活用できるようにする。			
目標	1. 療養者を取り巻く環境・看護師の役割や業務内容を理解する。 2. シミュレーションを通して学習したコミュニケーション技術を利用できる。			
評価方法	筆記および演習(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	ガイダンス	基礎看護学実習Ⅰの説明および看護学概論の学びを再確認する。メモを取ることの重要性について	
2	/	シミュレーション学習	ロールプレイ学習①およびグループワーク ・スタンダードプリコーション ・病棟へのあいさつ ・カンファレンスの仕方など	
3	/	シミュレーション学習	ロールプレイ学習②およびグループワーク ・実習記録の考え方、記入方法など ・ロールプレイ③の実習計画作成	
4	/	シミュレーション学習	ロールプレイ学習③およびグループワーク ・患者さんへのあいさつ ・病床環境の観察の仕方や気づいたことの共有学習 ・実習記録の考察について 課題:ロールプレイ④の実習計画作成	
5	/	シミュレーション学習	ロールプレイ学習④およびグループワーク ・患者さんとのコミュニケーションの実際と学び	
6		グループワーク	・発表に向けての振り返り、カンファレンス ・グループごとに演習を通した学びをまとめる(療養環境について、看護師の役割について)	
7	/	全体のまとめ	・グループ毎に発表し、基礎看護学実習Ⅰ-1における自身の課題を明確にする。 ・実習に向けての準備と留意点について	
8	/	テスト	シミュレーション学習を通した学びについて筆記試験	
履修者へのコメント: この科目は、基礎看護学実習Ⅰ-1に向けてのシミュレーション学習です。 毎回ロールプレイ学習があり、最終試験にも出題されるため原則出席することをすすめます。 事由により欠席する場合は、必ず学校に連絡すること。欠席日のグループの学びは自己で共有しておいてください。				
使用テキスト:系統看護学講座 専門 看護学概論、基礎看護学技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ(医学書院)				
備考:臨地実習をふまえたシミュレーション学習をする 複数名の専任教員(看護師として総合病院での実務経験あり)による演習				
授業準備品:白衣一式、ポケットメモ帳、ばねキーチェーン(コイルストラップ)、折り畳みバインダークリップ				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	講義形態	開講時期	単位/時間	担当教員
看護過程	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的	看護の目的を達成するために、看護過程のプロセスを理解する。			
目標	1. 看護過程を使って看護を行う利点とその使い方を理解し活用できる 2. 模擬患者(紙上事例)に対して看護過程を展開できる			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	A. 看護過程とは	①看護過程とは ②看護過程の意味	
2	/	A. 看護過程とは	①看護過程の5つの構成要素 ②5つの構成要素の関係性 ③看護過程を用いることの利点	
3	/	B. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方	①問題解決過程 ②クリティカルシンキング	
4	/	B. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方	③倫理的配慮と価値判断 ④リフレクション	
5	/	C. 看護過程の各段階	①アセスメント(情報の収集と分析) ②看護問題の明確化(看護診断)	
6	/	C. 看護過程の各段階	③看護計画の立案 ④実施	
7	/	C. 看護過程の各段階	⑤評価	
8	/	D. 看護記録	①看護記録とは ②記載・管理における留意点	
9	/	D. 看護記録	③看護記録の構成	
10	/	ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開	①看護過程ってなに ②ヘンダーソンが考える看護 ③ヘンダーソンの看護論に基づく看護過程の学び方	
11	/	ヘンダーソンの理論を用いた看護過程の展開	④ヘンダーソンの考えに基づいて看護過程を使ってみよう ⑤基本的看護の充足した状態および情報収集項目	
12	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】	
13	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】	
14	/	紙上事例を用いて看護過程の展開	【事例展開】	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術 I 「看護の基本となるもの」 バージニア・ヘンダーソン 「看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際」 「ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト」			医学書院 日本看護協会出版会 ヌーヴェルヒロカワ ヌーヴェルヒロカワ	
備考: 学科長、看護管理者 看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
臨床看護学総論	講義	1年次後期	1単位／30時間	専任教員
目的	健康上のニーズに着目し、健康状態の経過に基づき看護や症状に対する看護の基本原則について学ぶ。			
目標	1. 基礎的知識や技術が実践でどのように統合されるのか対象のライフサイクル、生活の場、健康状態、症状、治療と関連させて理解する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	／	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	A. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ	
2	／		B. 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ	
3	／		C. 人々の暮らしからとらえた健康上のニーズとケアサービスの拠点	
4	／	健康状態の経過に基づく看護	A. 健康状態と看護 B. 健康の維持・増進を目指す看護	
5	／		C. 急性期における看護 D. 回復期における看護	
6	／		E. 慢性期における看護 F. 終末期における看護	
7	／	主要な症状を示す対象者への看護	A. 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護	
8	／		B. 循環に関連する症状を示す対象者への看護	
9	／		C. 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 D. 排泄に関連する症状を示す対象者への看護	
10	／		E. 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 F. 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護	
11	／		G. コーピングに関連する症状を示す対象者への看護 H. 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 I. 安楽に関連する症状を示す対象者への看護	
12	／		A. 輸液療法を受ける対象者への看護 B. 化学療法を受ける対象者への看護 C. 放射線療法を受ける対象者への看護	
13	／	治療・処置を受ける対象者への看護	D. 手術療法を受ける対象者への看護 E. 集中治療を受ける対象者への看護	
14	／		F. 創傷処置・創傷ケアを受ける対象者への看護 G. 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護	
15	／		テスト	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 基礎看護学4 臨床看護学総論 医学書院				
備考: 看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
シミュレーション技術Ⅱ	講義・演習	1年次後期	1単位／15時間	専任教員
目的	基礎看護学実習Ⅰー2の実習に向けて、今まで学んだ科目の内容や看護技術を確認し、対象者に実施できるように学習する。			
目標	1. フィジカルアセスメントができるようになる。 2. 日常生活援助の基本的な技術を模擬患者に対して安全安楽に実践できる。 3. 自身の技術不足を明確にし、振り返りができる。			
評価方法	筆記試験及び演習、レポート(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	ガイダンス	①シミュレーション学習の目的・目標を理解する。 ②失敗が許される学習環境下で安全な看護を提供する意味について説明する。	
2	/	シミュレーション学習	事例① 模擬患者に対し、フィジカルアセスメント実施、必要な日常生活援助を導き出す。 援助の行動計画を立てる	
3	/	シミュレーション学習	前日の模擬患者に対し、援助を実施する。	
4	/	シミュレーション学習	事例② 模擬患者に対し、フィジカルアセスメント実施、必要な日常生活援助を導き出す。 援助の行動計画を立てる。	
5	/	シミュレーション学習	前日の模擬患者に対し、援助を実施する。	
6	/	グループワーク	事例①、事例②に対して実施した内容から自己のスキルについて振り返りをする。	
7	/	全体のまとめ	基礎看護学実習Ⅰー2に向け、どのような姿勢で臨むかを皆でグループワークし、発表する。	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
備考: 臨地実習をふまえたシミュレーション学習をする 複数の専任教員(看護師として総合病院での実務経験あり)による演習				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
シミュレーション技術Ⅲ	講義・演習	2年次前期	1単位/15時間	専任教員
目的	基礎看護学実習Ⅱの実習に向けて、看護過程を確認し、科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断能力を高めるように学習する。			
目標	1. ペーパーペイシエントの看護計画を立てられる。 2. 根拠に基づいた看護計画が立てられ、安全・安楽に配慮した演習ができる。 3. 自身の看護計画・行動計画・実践について振り返りができ、基礎看護学実習に向けて主体的な学習ができる。			
評価方法	筆記試験およびレポート(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	シミュレーション技術Ⅲのガイダンス	①基礎看護学実習Ⅱに向け、シミュレーション学習の意味を説明。 ②ペーパーペイシエント呈示。(個人で看護計画を立てる)	
2	/	看護計画立案	グループワーク:グループワークをし、看護計画の立案と行動計画を立てる。	
3	/	看護計画立案	グループワーク:グループワークをし、看護計画の立案と行動計画を立てる。	
4	/	看護計画野実践	グループワーク:患者・看護師・患者役を設定、問題解決するための援助計画を実施する。	
5	/	看護計画野実践	グループワーク:患者・看護師・患者役を設定、問題解決するための援助計画を実施する。	
6	/	看護計画野実践	リフレクション グループでの振り返り、自己の計画の振り返り、 基礎看護学実習Ⅱに向け、不足している学習を補足する。	
7	/	看護計画評価	リフレクション グループでの振り返り、自己の計画の振り返り 基礎看護学実習Ⅱに向け、不足している学習を補足する。	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院				
備考:リフレクションはファシリテーター役の教員が行う。 複数の専任教員(看護師として総合病院での実務経験あり)が担当する				

授業科目名の区分	専門分野			
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学実習Ⅰ (Ⅰ-1) (Ⅰ-2)	臨地実習	基礎看護学実習 Ⅰ-1(1年次前期) Ⅰ-2(1年次後期)	1単位／45時間	専任教員5人
評価方法	実習評価表に準ずる			

基礎看護学実習Ⅰ-1	基礎看護学実習Ⅰ-2
【目的】 看護の対象と対象を取り巻く環境および看護の役割を学ぶ	【目的】 患者と良好な人間関係を築き、対象に応じた療養環境の提供や生活行動への援助を実践する
【目標】 1. 病院・病棟の構造、機能、組織を知ることができる 2. 対象のおかれている環境および対象の療養環境を知ることができる 3. 看護の実践を見学し、看護の役割を知ることができる	【目標】 1. 対象の基本的欲求を理解し、援助の必要性がわかる 2. 対象にあわせて援助を計画し、実践・評価・考察できる 3. 看護師として必要な態度について理解できる
【実習内容】 1. 実習前オリエンテーション 2. 病院毎オリエンテーション 3. 院内見学 4. 病棟見学 5. 看護場面の見学 6. 入院患者とのコミュニケーション 7. 看護師に必要な態度、看護学生としての態度についての学び	【実習内容】 1. 実習前オリエンテーション 2. 病棟毎オリエンテーション 3. 受け持ち患者の情報収集 4. 受け持ち患者の日常生活援助の見学 5. 受け持ち患者の基本的欲求を知り、必要な援助がわかる 6. 受け持ち患者の援助の方法を理解する 7. 受け持ち患者の必要な援助を実施する 8. 看護実践の振り返りと学び 9. 今後の看護実践に対する課題および自己の課題の明確化
履修者へのコメント	1. 実習の具体的な時期・方法などは実習要綱を配布しオリエンテーションします。 2. 臨地実習基本要綱をよく読み、内容を理解しておきましょう。 3. 臨地実習に臨むまでに学内で必要な看護技術の練習をしておきましょう。 4. 元気に実習に臨めるように体調に留意して日々を過ごしましょう。
使用テキスト	系統看護学講座 専門 基礎看護学1 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
備考	

授業科目名	専門分野			
	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
基礎看護学実習Ⅱ	臨地実習	2年次前期	2単位／90時間	専任教員5人
目的	受け持ち患者に看護過程を適用し、科学的根拠に基づいた日常生活援助を実践し、看護の実践に必要な基礎的臨床判断能力を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を総合的に理解し、看護の必要性がわかる。 2. 対象と良好な人間関係を築き、対象の疾病や障害によって生じた生活の変化が理解できる。 3. 対象に必要な看護を科学的根拠に基づき計画し、療養環境の提供や生活行動への援助を実践・評価・考察できる。 			
評価方法	実習評価表に準ずる			
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者1名を受け持ち、臨床で看護過程のプロセスを実際に展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集 意図的なコミュニケーション・系統的な観察 基本的看護の構成因子にそって整理する。 ・アセスメント 看護問題の明確化 ヘンダーソンの看護問題リスト 優先順位を決定 ・計画立案 基本的欲求が満たされた状態に基づいた計画立案 看護介入と根拠の明確化 ・実施 患者の自立に向けて基本的欲求を充足するための援助 ・評価 看護問題ごとの評価、計画の修正・追加 2. 看護記録類の記入 SOAP形式での記録 3. 保健医療チームとの連携 4. 安全管理を意識して実習に臨む。日々の実習記録用紙で確認。 5. 看護者としての態度 			
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと 2. 実習の具体的な時期・方法などは実習要綱を配布しオリエンテーションします 3. 臨地実習に臨むまでに学内で必要な看護技術の練習をしておきましょう 4. 元気に実習に臨めるように体調に留意して日々を過ごしましょう 5. 事前学習・課題の提出 			
使用テキスト	系統看護学講座	専門	基礎看護学1	医学書院
	系統看護学講座	専門	基礎看護学2	医学書院
	系統看護学講座	専門	基礎看護学3	医学書院
備考				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
地域・在宅看護概論Ⅰ	講義	1年次後期	1単位／15時間	専任教員
目的	地域で療養、又は、障害を持ちながら生活をする人々とその家族の特徴を理解し、地域における看護活動のあり方と役割、機能について学び、また、保健・医療・福祉と連携した看護活動について学ぶ。			
目標	1. 地域における看護の機能と役割について理解する 2. 在宅ケアにおけるチームケアの重要性と看護職の役割を理解する。 3. 在宅看護に関わる法律・制度を理解する。 4. 在宅ケア、在宅看護、多職種との連携の重要性を理解する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	／	序章	A.働くこと・学ぶことと暮らし B.高齢者のいる暮らし C. 出産・育児と暮らし	
2		人々の暮らしと地域・在宅看護	A.人々の暮らしの理解 B.地域・在宅看護の役割	
3			演習1「暮らしを理解する」	
4	／	暮らしの基盤としての地域の理解	A.暮らしと地域 B.暮らしと地域を理解するための考え方 C.地域包括ケアシステムと地域共生社会	
5	／		演習2「地域を理解する」	
6	／	地域・在宅看護の対象	A.地域・在宅看護の対象者 B.家族の理解 C.地域に暮らす対象者の理解と看護	
7	／		演習3「家族を理解する」	
8	／	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 第1・2・3章(医学書院)				
備考:基礎看護・老年看護・地域・在宅看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
地域・在宅看護概論Ⅱ	講義	3年次前期	1単位／15時間	専任教員
目的	暮らしの場で行われる医療処置とその管理、日常生活に必要な看護について科学的根拠に基づいて事例展開を行ない、在宅看護の臨床判断能力を養う。			
目標	1. 訪問看護における看護過程の特徴を理解する。 2. 在宅における療養上のリスクについて理解する。 3. 事例に沿った看護過程を展開する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	地域・在宅看護の実践	A.療養者と家族の思いから始まる看護 B.さまざまな人たちが力を合わせる看護 C.長期的なかかわりが必要になる看護	
2	/	地域・在宅看護の展開	A.地域・在宅看護における看護過程	
3	/		B.地域・在宅看護過程の展開方法	
4	/	地域・在宅における時期別の看護	A.健康な時期の看護 B.外来受診期における看護	
5	/		C.入院時の看護 D.在宅療養準備期(退院前)の看護	
6	/		E.在宅療養移行期の看護 F.在宅療養安定期の看護	
7	/		G.急性増悪期の看護 H.終末期の看護 I.在宅療養終了時の看護	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護論の実践 第1章 第3章 (医学書院)				
備考:基礎看護・老年看護・地域・在宅看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
コミュニティケア (家族看護)	講義	2年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的	地域で生活する人々とその家族について理解し、地域で取り組んでいる活動と看護について学ぶ			
目標	1. 家族看護とは何かを理解できる。 2. 家族看護の特徴を理解できる。 3. 家族を支えるコミュニティのフォーマル・インフォーマルな資源を知る。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働	A. 地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働 B. 医療・福祉・介護関係者との連携・協働	
2	/		C. 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働	
3	/		D. 地域共生社会を実現するために	
4	/	地域・在宅看護マネジメント	A. 地域・在宅看護マネジメント	
5	/		B. 多様な場における地域・在宅看護マネジメント	
6	/	地域・在宅看護活動の創造と展開例	A. 地域・在宅看護活動の創造 B. [暮らしの保健室]の例	
7	/		C. さまざまな地域・在宅看護活動の展開例	
8	/		D. 地域・在宅看護活動の創造のための考え方	
9	/		家族看護展開の方法	A. 家族看護過程とは B. 家族看護の実践
10	/		C. さまざまな家族アセスメントモデル	
11	/	事例に基づく家族看護学の実践	A. 急性期患者の家族看護 B. 慢性期小児患者の家族看護	
12	/		C. 終末期患者の家族看護 D. 先天奇形をもつ児の家族看護	
13	/		E. 精神疾患患者の家族看護 F. 高齢の患者の家族看護	
14	/		G. 周産期に関する家族看護	
15	/		テスト・研究発表	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 第5章、第6章、第7章 医学書院				
備考: 地域・在宅看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
療養者の看護	講義	2年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	さまざまな疾病で療養する対象者の医療処置とその管理、および看護についての知識を深める。			
目標	1. 在宅で療養する対象者の事例展開を通し、在宅看護活動と看護師の役割を理解できる。 2. 在宅で行われている医療処置とその援助について科学的根拠に基づいて学ぶ。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	家族看護とは	A.家族看護の特徴と理念 B.家族看護の実践の場面	
2	/	家族看護の対象理解	A.家族とは B.家族構造 C.家族機能 D.現代の家族とその課題	
3	/	家族看護を支える理論と介入法	A.家族を理解するための理論 B.家族の変化を把握するための理論 C.家族に変化をもたらすための介入	
4	/	家族看護展開の方法	A.家族看護過程とは B.家族看護の実践 C.さまざまな家族アセスメントモデル	
5	/	地域・在宅看護の事例展開	認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開	
6	/		(老年看護学)	
7	/		ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開	
8	/		(成人看護学:神経)	
9	/		COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開	
10	/		(成人看護学:呼吸器)	
11	/		終末期(がん)の療養者に対する在宅看護の事例展開	
12	/		(成人看護学:消化器)	
13	/		統合失調症の療養者に対する在宅看護の事例展開	
14	/		(精神看護学)	
15	/	テスト・研究発表		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 第4章 医学書院				
備考: 地域・在宅看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
在宅看護技術	講義	3年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	在宅における療養者の日常生活に必要な看護技術について科学的根拠に基づいて学ぶ。 在宅における医療処置および管理を必要とする対象について基礎的な方法を学ぶ。			
目標	1. 在宅療養者と家族を対象とした必要な看護の実際を理解する。 2. 在宅における具体的な援助技術を習得する。 3. 在宅における医療管理を必要とする人の看護を理解する。			
評価方法	筆記試験および技術(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	暮らしを支える看護技術	A.暮らしの場で看護をするための心構え	
2	/		B.セルフケアを支える対話・コミュニケーション	
3	/		C.地域・在宅看護における家族を支える看護	
4	/		D.地域・在宅看護における安全をまもる看護	
5	/	暮らしを支える看護技術 E.地域における暮らしを支える 看護実践	療養環境調整に関する地域・在宅看護技術	
6	/		活動・休息に関する地域・在宅看護技術	
7	/		食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術	
8	/		排泄に関する地域・在宅看護技術	
9	/		清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術	
10	/		清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術	
11	/		苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術	
12	/		呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術	
13	/		創傷管理に関する地域・在宅看護技術	
14	/		与薬に関する地域・在宅看護技術	
15	/	テスト・研究発表		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実際 第3章 医学書院				
備考: 地域・在宅看護をの臨床経験者 日常生活援助を在宅で実施することを想定し、学内で演習する。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
在宅 シミュレーション技術	講義・演習	3年次前期	1単位/15時間	専任教員
目的	療養者に必要な在宅看護が実践できる基本的な能力を養う。また、看護師の役割、態度を学ぶ。			
目標	1. 訪問シミュレーション学習をふまえて訪問看護計画を作成できる。 2. 在宅訪問時のマナーおよび面接技術がわかる。			
評価方法	筆記試験およびレポート			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	講義	1) 在宅訪問時の心構え・身だしなみ・態度及び行動 2) 訪問看護倫理要綱 3) シミュレーション演習の説明	
2	/	在宅看護アセスメント演習	〈訪問看護計画の作成〉	
3	/	－生活の場における 健康状態の把握－	1) 事例に関する知識の確認 2) 訪問時の観察	
4	/		3) 訪問看護計画の作成(グループワーク)	
5	/	訪問看護過程演習 －在宅での看取り－	1) 講義:在宅で看取るということ 2) 在宅での緩和ケア 3) 看取りを支える体制 4) 家族ケア	
6	/		〈訪問看護計画の作成〉個人 1) 事例の説明と知識の確認 2) 個々人で訪問看護計画を作成	
7	/		〈訪問看護計画書の作成〉グループで統合	
8	/	テスト・研究発表	グループ発表	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 専門 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院				
備考: 地域・在宅看護の臨床経験者 在宅での訪問看護実習をふまえ、症例を提示し看護過程の展開と共に具体的な在宅での看護援助を考える				

授業科目名の区分	専門分野			
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
地域・在宅看護論 実習Ⅰ	臨地実習 施設見学	1年次後期	1単位／45時間	専任教員5人
目的	地域で暮らす人々について、住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるようなサポートシステムについて知る。また、地域における暮らしの中の様々な場での看護の基礎を学ぶ。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々の暮らしの多様性を知る。 2. 暮らしの中の看護活動の場や地域で活動する看護師の役割を知る。 3. 地域で暮らす人々の発達段階を理解し、健康の保持・増進を支援サポート体制と多職種について知る。 			
評価方法	実習評価表に準ずる			
実習内容	【臨地実習】 <ul style="list-style-type: none"> ・豊島区区民ひろば ・同善病院内コミュニティ&ホスピタル 			
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと。 2. 基礎看護学・地域看護学を学習、理解すること。 3. 事前学習・課題の提出。 			
使用テキスト	系統看護学講座	専門	基礎看護学	医学書院
	系統看護学講座	専門	地域・在宅看護論1	医学書院
		専門	地域・在宅看護論2	医学書院
備考	地域・在宅看護論の教育経験者			

授業科目名の区分	専門分野			
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
地域・在宅看護論 実習Ⅱ	臨地実習	3年次	2単位／90時間	専任教員5人
目的	地域で療養している人々とその家族の特徴を理解し、住み慣れた地域でその人らしい生活が送れるように援助するための基礎的な能力を養う。また、在宅療養を支える社会資源や多職種の役割と連携について理解できる。さらに地域で活動するコミュニティナースについて知ることが出来る。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす人々の生活と健康上の問題、訪問看護に至る過程や問題解決の考え方とその人らしい支援方法を理解する。 2. 訪問看護を受ける対象と家族の意思決定の支援方法がわかる。 3. 社会資源の活用、関係機関との連携、協働について理解を深め、保健医療福祉チームの一員であることが理解できる。 4. コミュニティナースの活動に参加し、地域の人々が暮らしている場所での看護師の役割がわかる。 			
評価方法	実習評価表に準ずる			
実習内容	<p>【訪問看護ステーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で生活する療養者とその家族について、在宅看護の機能と役割の実際を理解できる 2. 在宅で生活する療養者とその家族に配慮した行動がとれる 3. 在宅看護に必要な保健医療福祉チームについて理解できる 4. 社会資源の種類及び活用状況について理解できる 5. 訪問看護ステーションの管理・運営・活動について理解する <p>【コミュニティナースの活動拠点】</p> <p>コミュニティナースと共に地域の人々との関わりに参加する。</p>			
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと。 2. 専門科目・基礎看護学・在宅看護論・家族看護学を復習し、理解すること。 3. 事前学習・課題の提出。 			
使用テキスト	系統看護学講座 統合 在宅看護論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 家族看護学 (医学書院)			
備考	地域・在宅看護論の教育経験者			

授業科目名の区分	専門分野				
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員	
成人看護学実習 I (慢性期・回復期)	臨地実習	2年次	1単位／45時間	専任教員5人	
目的	障害のある対象者及びその家族の慢性期・回復期における障害の受容、生活の再構築、セルフマネジメントに向けての基礎的な看護援助を学ぶ。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設を利用する障害者の症状・機能障害の程度・合併症と日常生活行動の制約について理解できる。 2. 障害を持つ対象者や家族に起こりやすい問題が理解できる。 3. 障害者支援施設などの見学を通し、介護・医療サービス・安全への配慮や工夫がわかる。 4. 対象の人権を尊重した態度がとれる。 				
評価方法	実習評価表に準ずる				
実習内容	国立療養所 【多摩全生園】 施設概要説明・ハンセン病医学概論受講 園内見学 【赤羽リハビリテーションセンター病院医療連携室】 医療連携室の役割や、病院から地域で生活していくためのサポートについて見学する。				
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと。 2. 専門科目・基礎看護学・成人看護学・その他 を復習し、理解しておくこと。 3. 事前学習・課題の提出。 				
使用テキスト	系統看護学講座	専門	成人看護学1	成人看護学概論	医学書院
	系統看護学講座	専門	成人看護学2～15		医学書院
	系統看護学講座	別巻	リハビリテーション看護		医学書院
備考	領域の臨床経験を持つ教員				

授業科目名の区分	専門分野			
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学実習Ⅱ (急性期にある対象)	臨地実習	3年次	2単位／90時間	専任教員5人
目的	周手術期や急性期にある対象を理解し、生命の維持・苦痛の緩和・健康の回復に向けて、科学的根拠に基づいた臨床判断のもと、対象に必要な看護を学ぶ。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける患者の特徴が理解できる。 2. 手術当日までの看護が理解できる。 3. 患者に起こりやすい問題が理解できる 4. 手術前後の患者の状態を考慮し、患者の望ましい状態について理解できる。 5. 手術がより良い状態で行えるよう、心身の準備への援助ができる。 6. 手術による諸問題を予測しながら手術後の援助ができる。 7. 手術を受ける患者・家族の不安および苦痛の配慮ができる。 			
評価方法	実習評価表に準ずる			
実習内容	<p>【急性期患者の看護】 手術を受ける患者の看護 〔手術前／後〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術の適応となった病気、予測される合併症、手術によって変化するまたは、変化した機能が理解できる 2. 手術を受けるまたは、受けた患者・家族の精神的・社会的状況が理解できる 3. 安全に手術が受けられよう援助する。また手術後の回復を促進するような援助ができる 4. 患者・家族が手術を受容できるように援助する。 手術を受けた患者・家族が、手術後の身体や社会における自己を受容できるよう援助する 5. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、他のチームメンバーとの協力の必要性が理解できる 6. 看護計画を立案し実践・評価できる <p>〔手術中〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術室内での患者の状況が理解できる 2. 手術見学を通し、患者に必要な術後の看護を理解する 3. 生体機能の急激な変化と変化に至った経過、予測される合併症を理解する 4. 生命の安全確保と身体的苦痛に対する援助をする 5. 患者・家族のおかれている状況を理解する 6. 回復を促進するよう援助する 7. 保健医療チームにおける看護師の役割を理解した行動がとれる 8. 看護計画を立案し実践・評価する 			
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと。 2. 専門科目・基礎看護学・成人看護学・その他を復習し、理解しておくこと。 3. 事前学習・課題の提出。 			
使用テキスト	系統看護学講座 専門 成人看護学1 成人看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学2～15 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院			
備考	領域の臨床経験を持つ教員			

授業科目名の区分	専門分野			
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学実習Ⅲ (回復期・慢性期)	臨地実習	3年次	2単位／90時間	専任教員5人
目的	機能障害を持つ対象者の障害受容、生活の再構築、セルフマネジメントに向けて科学的根拠に基づいた看護を提供するための基礎的な臨床判断能力を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機能障害を持つ患者の特徴が理解できる。 2. 患者・家族に起こりやすい問題が理解できる。 3. 患者の状態を考慮し、望ましい状態について理解できる。 4. 障害された機能に応じた生活の再構築に向けての援助ができる。 5. 社会復帰・セルフマネジメントへの援助ができる。 6. 患者の安全に配慮ができる。 7. 疾病や障害が患者・家族にもたらす不安・苦痛への配慮ができる。 			
評価方法	実習評価表に準ずる			
実習内容	<p>【回復期の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の病気からくる変化が理解できる 2. 患者の病気以外からくる変化が理解できる 3. 患者・家族の心理的・社会的状況が理解できる 4. 患者が現在の状態を悪化させないよう、また進行を穏やかにし、回復にむかうよう援助する 5. 能力を最大限に活用した病気および生活上の管理方法を修得し、継続できるよう患者・家族へ援助する 6. 保健医療チームにおける看護師の役割を理解した行動がとれる 7. 看護計画を立案し実践・評価する <p>【慢性期の患者の看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的経過をたどる患者の病態と治療について関連付けてわかる 2. 成人期で慢性的経過をたどる患者・家族の身体的・精神的・社会的状況が理解できる。 4. 慢性の経過をたどる患者の生活を尊重し、セルフケア再獲得のための支援ができる。 5. 能力を最大限に活用した病気および生活上の管理方法を習得し、継続できるよう患者・家族へ援助する。 6. 保健医療チームにおける一員として看護師の役割を理解した行動がとれる。 7. 看護計画を立案し実施・評価する。 			
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと。 2. 専門科目・基礎看護学・成人看護学・その他 を復習し、理解しておくこと。 3. 事前学習・課題の提出。 			
使用テキスト	系統看護学講座 専門	成人看護学1	成人看護学概論	医学書院
	系統看護学講座 専門	成人看護学2～15		医学書院
	系統看護学講座 別巻	リハビリテーション看護		医学書院
備考	領域の臨床経験を持つ教員			

授業科目名	専門分野			
	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学実習Ⅰ	臨地実習	2年次後期	2単位／90時間	専任教員5人
目的	地域や施設における関わりを通して老年期の特徴を理解し、高齢者の持てる力を活かした、看護を実践する基礎的な臨床判断能力を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会で生活する健康な高齢者のその人らしい姿を理解する。 2. 高齢者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。 3. 高齢者生活を支える保健・医療・福祉の役割および連携について理解できる。 4. 施設で生活している高齢者に適した日常生活の援助ができる。 5. 高齢者の生活史や価値観を理解し、尊重した態度がとれる。 			
評価方法	実習評価表に準ずる			
実習内容	<p>【介護老人保健施設】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護老人保健施設の概要を理解する 2. 利用者、設置主体、活動内容、職員の役割、1日のスケジュール、健康管理、作業療法等を理解する 3. 施設を見学し利用者に関わり、コミュニケーション。 4. 日常生活援助の見学と実施 5. 入所者の健康管理の見学 6. 日常業務、夜間対応、緊急時の対応、看護職・介護福祉士の役割と連携を理解できる 7. 短期入所、デイサービス、在宅看護支援センター等の見学 <p>【介護老人福祉施設】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護老人福祉施設の概要を理解する 2. 利用者、設置主体、活動内容、職員の役割、1日のスケジュール、健康管理、作業療法等を理解する 3. 介護老人福祉施設を見学し利用者との関わり、コミュニケーション。 4. 日常生活援助の見学と実施 5. 入所者の健康管理の見学 6. 日常業務、夜間対応、緊急時の対応、看護職・介護福祉士の役割と連携を理解できる 7. 短期入所、デイサービス、在宅看護支援センター等の見学 <p>【デイサービスセンター】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. デイサービスセンターの概要を理解する 2. 利用者、設置主体、活動内容、職員の役割、一日のスケジュール、健康管理、作業療法等を理解する。 3. 利用者に関わりを持つ 4. 利用者の体調の確認 5. レクリエーション活動への参加 6. デイサービスセンター利用者との関わり、コミュニケーション 			
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと。 2. 専門科目・基礎看護学・老年看護学・その他を理解しておくこと。 3. 事前学習・課題の提出 			
使用テキスト	系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
備考	領域の臨床経験を持つ教員			

授業科目名の区分	専門課程			
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学実習Ⅱ	臨地実習	3年次	2単位／90時間	専任教員5名
目的	健康障害がある高齢者を包括的にとらえ、対象の生活の質の向上を目指した看護を实践する基礎的な臨床判断能力と対象を尊重した態度を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の健康障害の特徴を理解できる。 2. 高齢者の健康障害に対しておこる問題を把握し、対象の個別性をふまえた看護過程の展開を行ない、対象者の生活の質の向上を目指した看護を实践する。 3. 高齢者を取り巻く人々や対象者の生活能力の減退と健康障害に対し理解できる。 4. 対象者の看護を通して高齢者を尊重した態度がとれる。 			
評価方法	実習評価表に準ずる			
実習内容	【病院実習】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴を把握し、高齢者の療養環境を整える。 2. 高齢者に必要な診断・治療、看護に関わる援助を理解し、实践する。 3. 保健医療福祉に携わる職種との協働・連携の場について学ぶ。 4. 高齢者とその支援をする人々との関わりを通して看護師の役割を理解し、行動できる。 5. 受け持ち患者の情報収集 6. 受け持ち患者の看護 リハビリテーション、検査、処置の見学、実施 7. 看護計画に基づく受け持ち患者の看護 8. 生活指導・保健指導の見学 			
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと 2. 専門科目・基礎看護学・老年看護学・その他を理解しておくこと 3. 事前学習・課題の提出 			
使用テキスト	系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
備考	領域の臨床経験を持つ教員			

授業科目名の区分	専門分野			
授業科目名	講義形態	開講時期	単位／時間	担当教員
小児看護学実習	臨地実習	3年次	2単位／90時間	専任教員5人
目的	小児各期の成長発達の特徴を理解し、成長発達に応じた看護の基本を学ぶ。 健康障害のある患児・家族を理解し、必要な看護を学び、臨床判断能力を高める。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の発達段階に応じた援助のあり方を理解することができる。 2. 保育園などの社会的役割を理解することができる。 3. 健康障害が、小児や家族の生活に及ぼす影響を理解し、小児に必要な看護を実践できる。 4. 小児の発達段階と病状に応じたアセスメントができる。 5. 小児の成長発達段階と病状に応じた看護技術が実践できる。 6. 自己の看護観を養い、小児医療チームの一員としての看護師の役割を理解することができる。 7. 医療チームの一員である自覚を持ち、看護学生としての責任を果たすことができる。 			
評価方法	実習評価表に準ずる			
実習内容	<p>【乳児院】子育て支援センター</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域子育て支援としての役割について学ぶ <p>【病院実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもとその家族を尊重した人間関係を築くことができる 2. 子どもの健康障害の程度、発達段階に適した安全管理が実践できる 3. 子どもとその家族に係る情報収集とアセスメントができる 4. 子どもの健康障害の程度、発達段階、自律性を考慮した看護実践ができる 5. 小児にかかわる看護専門職者としての基本的姿勢を理解し、保健医療チームの一員として行動できる <p>【外来実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児外来の特徴と看護師の役割を理解する。 2. 健康問題を持つ小児と家族に及ぼす影響を把握し、適切な看護について学ぶ。 <p>【保育園実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの形態・機能、心理・社会的特徴を理解できる 2. 子どもの発達段階(自立度)と自律性を考慮した基本的生活習慣(食事、清潔、衣服の着脱、排泄、睡眠・休息)の援助やしつけができる 3. 子どもの安全を配慮した行動(環境調整・健康状態の把握ほか)ができる 4. 子どもの発達段階に応じた遊びの実践ができる 5. 子どもの発達段階に適したコミュニケーション(ユーモアの活用)がとれる 6. 子どものさまざまな言動に対し、受容的態度がとれる 7. 子どもに対し教育的配慮のある言葉使い、行動、態度がとれる 8. 子どもとの関わりに適切な身だしなみや健康状態で実習できる 			
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと。 2. 基礎看護学・小児看護学①、②を学習し、理解しておくこと。 3. 事前学習・課題提出 			
使用テキスト	系統看護学講座 専門 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院			
備考	領域の臨床経験を持つ教員			

授業科目名の区分	専門分野			
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
精神看護学実習	臨地実習	3年次	2単位/90時間	専任教員5人
目的	精神に障害を抱えた対象を取り巻く環境や社会の役割について学び、対象と家族への看護について、科学的根拠に基づいて援助する基礎的な能力を養う。また相関関係の中で相手を尊重する態度を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神に障害を抱えた対象及び家族の現状が理解できる。 2. 精神に障害を抱えた対象及びや家族への援助方法を理解し、一部を実践できる。 3. 保健医療福祉チームとの連携と、看護の役割が理解できる。 4. 自己と対象の関わりを振り返り、相互関係について理解できる。 5. 人間性を尊重した誠実な態度で対象に接することができる。 			
評価方法	実習評価表に準ずる			
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1)対象を把握する <ul style="list-style-type: none"> ・精神情報の発生状況 ・精神症状が対象の日常生活に与える影響 ・身体症状と精神症状との関連を知る ・治療方法と患者の理解度を把握する ・リハビリへの意欲を把握する 2)患者を取り巻く環境(家庭・職場・地域)の状況を把握する 2. 1)病態関連図を作成し、全体像を理解する 2)身体的・精神的・社会的側面から看護問題を抽出する 3)看護問題に対し、根拠を示しながら目標を設定する 4)転倒転落を防止、また、自傷・自殺・他者への攻撃を防止する 5)患者の持っている力に着目する 6)患者の反応を見逃さない 3. 1)社会復帰に向けての活動に可能な限り参加する 2)地域におけるケアや支援などを見学する <ul style="list-style-type: none"> ・施設の意義について学ぶ 3)患者の安全を考慮した企画を考える <ul style="list-style-type: none"> ・気分転換の方法や行動を観察する 4. 1)事実をありのままにプロセスレコードに記載する 2)自分の感情や行動の傾向を知り、今後の行動変容に役立てる 5. 1)対象を尊重した内容や方法で行う <ul style="list-style-type: none"> ・言葉づかい、テンポや視線に注意する ・対象との適切な距離を保つ 			
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 次の科目単位が修得されていること 「看護の基本」に該当する科目 精神看護概論 精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅱ 精神看護学方法論Ⅲ 			
使用テキスト	系統看護学講座 専門 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院			
備考	領域の臨床経験を持つ教員			

授業科目名の区分	専門分野			
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
母性看護学実習Ⅰ 母性看護学実習Ⅱ	臨地実習 施設見学	母性看護学実習Ⅰ 母性看護学実習Ⅱ (2年次後期)	2単位／90時間	専任教員5人
評価方法	実習評価表に準ずる			

母性看護学実習Ⅰ	母性看護学実習Ⅱ
<p>【目的】 母性看護の対象や地域における現状と看護の役割を学ぶと共に産褥・新生児期にある対象へ、科学的根拠に基づいた看護実践のための基礎的な看護を学ぶ。</p>	<p>【目的】 妊娠・分娩・産褥各期の女性および胎児・新生児の特徴を知り、科学的な根拠に基づいた臨床判断のもと、母児とその家族に必要な看護を学ぶ。</p>
<p>【目標】 1. 母性看護における現状からニーズが理解できる。 2. 母性看護における地域連携の必要性や助産所の活動を知り、母性看護活動が理解できる。 3. 性教育における現状を知り、看護の視点で考えることができる。 4. 産褥・新生児期のある対象のウェルネス状態や科学的根拠に基づいた臨床判断を行い、必要な看護を 実践できる。 5. 母性看護の看護実践に必要な基本的態度を身につけることができる。</p>	<p>【目標】 1. 妊娠時の母児の経過及び健康について理解できる。 2. 分娩各期の経過から産婦の特徴を理解し、必要な看護が理解できる。 3. 産褥期の身体的、精神的、社会的変化の特徴と看護について理解できる。 4. 母児および家族の継続支援の必要性を理解できる。 5. 母児にかかわる諸制度と母子保健医療チームの連携について理解できる。 6. 新生児が子宮外生活に適応していく過程を理解できる。 7. 妊産褥婦における基礎的看護技術と態度を身につけることができる。 8. 生命の尊さや自己の母性観・父性観について考えることができる。</p>
履修者へのコメント	1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと。 2. 母性看護学①、②を学習し、理解しておくこと。 3. 事前学習・課題の提出
使用テキスト	系統看護学講座 専門 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院
備考	領域の臨床経験を持つ教員

授業科目名の区分	専門分野			
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
看護の統合と実践実習	臨地実習	3年次	2単位／90時間	専任教員5人
目的	病棟管理の実際と複数患者の優先度の臨床判断を学び、チームの一員としての看護を実践し、看護専門職としての役割を理解することで、自覚と責任感を養う。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護部の役割、病棟看護師長やチームリーダーの役割、病棟管理の実際、他部門との調整などの見学を通して看護管理の実際を学ぶ。 2. 夜勤帯看護師の役割がわかる。 3. 診療の補助技術の安全性、効率性がわかる。 4. 複数患者の看護過程の展開を通し、ケアの優先度を判断しながら看護実践ができる。 5. 看護の統合と実践実習で学んだことを通し、チームの一員として自己の目標を明確にできる。 			
評価方法	実習評価表に準ずる			
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院・病棟における看護管理の実際の見学を通して、看護管理について理解する。 2. 管理者・リーダーから夜勤帯看護師の役割、看護師の配慮や患者の変化等の説明を受けることで夜間業務に対するイメージができる。 3. 複数課題の優先順位を科学的根拠に基づいて判断し、看護を実践する。 4. 受け持ち患者の状況に応じて援助の優先順位をチーム内で調整ができる。 5. 複数患者を受け持ちケアの優先度を判断しながら行動計画を立案し援助を行うことができる。 6. 患者の安全・安楽・自立を考慮した看護ができる。 7. 保健医療チームにおける看護師の役割を理解する。 			
履修者へのコメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習基本要綱を理解しておくこと。 2. 専門科目・基礎看護学・成人看護学・看護の統合と実践、その他を復習し、理解しておくこと。 3. 事前学習・課題の提出。 			
使用テキスト	1年次・2年次・3年次のテキストすべて			
備考	領域の臨床経験を持つ教員			

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
看護研究 I	講義・演習	2年次後期	1単位/15時間	専任教員
目的	看護研究の目的・方法・研究過程・研究計画立案などについて理解し、看護研究の基礎を習得する。			
目標	看護研究を行う意義を理解し、研究を実践・発表するための手法と過程がわかる。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	看護研究とは	A. 看護研究とはなにか B. なぜ看護研究を学ぶのか C. 看護研究の歴史 D. 看護研究への期待	
2	/	看護研究の始め方 -リサーチクエストをたてる-	A. リサーチクエストとは B. リサーチクエスト決定までのプロセス	
3	/	情報の探索と吟味 -文献レビューとその方法-	A. 情報と科学的な根拠 B. 文献とその種類 C. 文献レビューとその目的 D. 文献検索の方法 E. 文献の入手と整理 F. 文献の読み方 G. 文献レビューの記述	
4	/	研究における倫理的配慮	A. 研究における倫理的配慮の原則 B. 依頼書と同意書の書き方 C. 特別な配慮が必要な場合の対応 D. 依頼書・同意書の例	
5	/	研究デザイン -研究の設計と方法の選択-	A. 看護における研究デザインの多様性 B. 研究デザインの選択 C. 研究デザインの整理 D. 質的研究デザイン E. 量的研究デザイン F. ミックスドメソッド G. 尺度開発	
6	/	データの収集・分析	A. データとは B. 標本の選択 C. データの収集法 D. インタビューデータ収集の手順 E. アンケートデータの収集 F. 開発された尺度の活用 G. 観察データの収集 H. 生理学的測定データ	
7	/	ケースレポート・事例研究の進め方	ケースレポート・事例研究の進め方 A. ケースレポート B. 事例研究 C. 事例介入研究	
8	/	テスト		
履修者へのコメント: 領域別実習開始前の講義である。実習には意欲的・意識的に参加し、自己の研究テーマが見出せるようにする。				
使用テキスト: 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院				
備考: 学科長・看護管理者 看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
看護研究Ⅱ	講義・演習	3年次前期	1単位／15時間	専任教員
目的	自己の看護研究テーマを明確にし、看護研究を実施・発表することで、手法と過程を学ぶ。			
目標	自己の看護研究テーマについて、研究・分析し、発表する。また、今後の自己の課題を明らかにする。			
評価方法	評価表に基づいて評価する(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	／	研究計画書の作成 研究を伝える -学会発表・論文作成-	A. 研究計画書とは B. 研究計画書の書式と書き方 C. 研究計画書の例 ----- A.研究成果をまとめる B.研究成果を伝える	
2	／	ケースレポート・事例研究の進め方	ケースレポート・事例研究の進め方 A. ケースレポート B. 事例研究 C. 事例介入研究	
3	／	調査研究の進め方	A. 実態調査研究の進め方 B. 相関研究の進め方	
4	／	文献研究・実践報告の進め方	A. 文献研究 B. 実践報告ーグッドプラクティスの提示	
5	／	看護研究の未来	A. 看護研究とそうでないもの B. 質の高い看護実践のために C. 看護研究における今後の課題	
6	／	看護研究の実際	計画をもとに看護研究を進める	
7	／			
8	／	発表	自己の研究結果を発表する	
履修者へのコメント 看護研究Ⅰの講義を踏まえ、臨地実習から研究テーマを明確にし、看護研究に取り組むこと。 実習は意欲的に取り組み、自己の看護について考え、研究発表できるようにする。				
使用テキスト:系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院				
備考:学科長・看護管理者				

授業科目名の区分		看護の統合と実践		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
看護学概論Ⅱ (管理・倫理・災害・国際)	講義	3年次	1単位/30時間	外部講師 専任教員
目的	<p>【看護管理】安全で安心な看護を提供するために看護管理について学び、組織の一員として必要な管理と課題を理解し、看護実践に活かせる基礎的な能力を高める。</p> <p>【看護倫理】倫理の意味や倫理原則を学び、倫理的感受性を高める。また、倫理上の問題を把握し、今後の看護実践に活かせる基礎的な能力を高める。</p> <p>【災害看護】保健医療福祉チームの一員として看護の役割を理解し、災害医療の基礎知識を学び、災害看護に参加するための基礎的な能力を養う。</p> <p>【国際看護】国際看護の基礎知識を学び、国際看護の展開や開発・協力・国際救援の活動について知識を深める。</p>			
目標	<p>1. 対象に安全で安楽な看護実践を提供するための看護管理の基本を理解する。</p> <p>2. 保健医療福祉にかかわる倫理上の問題を理解する。</p> <p>3. 災害時における看護師の役割を理解する。</p> <p>4. 国際看護の意味を理解し、国際救援活動について知識を深める。</p>			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	<p>【看護管理】 看護とマネジメント</p> <p>看護ケアのマネジメント</p>	<p>A. 看護管理学とは B. 看護におけるマネジメント</p> <p>-----</p> <p>A. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 B. 患者の権利の尊重 C. 安全管理 D. チーム医療 E. 看護業務の実践</p>	
2	/	看護職のキャリアマネジメント	<p>A. キャリアとキャリア形成 B. 看護職のキャリア形成 C. 看護専門職としての成長 D. タイムマネジメント E. ストレスマネジメント</p>	
3	/	看護サービスのマネジメント	<p>A. 看護サービスのマネジメント B. 組織目的達成のマネジメント C. 看護サービス提供のしくみづくり D. 人材のマネジメント E. 施設・設備環境のマネジメント F. 物品のマネジメント G. 情報のマネジメント H. 組織におけるリスクマネジメント Iサービス評価</p>	
4	/	マネジメントに必要な知識と技術	<p>A. マネジメントとは B. 組織とマネジメント C. リーダーシップとマネジメント D. 組織の調整</p>	
5	/	看護を取り巻く諸制度	<p>A. 看護の定義 B. 看護職 C. 医療制度 D. 看護政策と制度</p>	
6	/	<p>【看護倫理】 倫理学の基本的な考え方</p>	<p>A. 倫理とは何か B. 倫理理論 C. 他者理解と対話のための理論</p>	
7	/	<p>生命倫理</p> <p>性と生殖の生命倫理</p>	<p>A. 生命倫理とは何か B. 生命倫理の理論 C. 生命倫理と看護職の責務</p> <p>-----</p> <p>A. 性の生命倫理 B. 生殖の生命倫理</p>	
8	/	<p>死の生命倫理</p> <p>先端医療と制度をめぐる生命倫理</p>	<p>A. 死について B. 死と医療 C. 死についての生命倫理の課題</p> <p>-----</p> <p>A. 移植医療 B. 再生医療 C. 遺伝子医療 D. 医療資源と医療保険制度</p>	

9	／	看護倫理とはなにか 専門職の倫理	A. 看護倫理を学ぶ意義 B. 看護倫理の歴史 C. 看護の倫理原則 D. 看護実践上の倫理的概念 E. 看護実践と倫理 ----- A. 社会から見た看護 B. 専門職に求められる倫理 C. 専門職の倫理綱領 D. 看護業務基準と倫理実践 E. 保健師助産師看護師法と倫理	
10	／	倫理問題へのアプローチ	A. 看護実践における倫理的問題の特徴 B. 倫理的問題へのアプローチ	
11	／	【災害看護学】 災害看護学・国際看護学を学ぶ にあたって	A. 看護とグローバル化した社会 B. 求められる災害看護学と国際看護学 ----- A. 災害看護の歩み B. 災害医療の基礎知識 C. 災害看護の基礎知識 D. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	
12	／	災害看護学	E. 被災者特性に応じた災害看護の展開 F. 災害とこころのケア	
13	／	地震災害看護の展開	A. 発災直後から出動までの看護 B. 急性期の看護 C. 亜急性期の看護 D. 慢性期・復興期の看護	
14	／	【国際看護学】 国際看護学 災害看護学・国際看護学にお ける教育・研究	A. 国際看護学とは B. グローバルヘルス C. 国際協力のしくみ D. 文化を考慮した看護 E. 国際看護活動の展開過程 F. 開発協力と看護 G. 国際救援と看護 ----- A. 災害看護学・国際看護学における教育 B. 災害看護学・国際看護学と研究	
15	／	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 系統看護学講座 専門 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院				
備考: 学科長・看護管理者				

授業科目名の区分		看護の統合と実践		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
医療安全	講義	3年次	1単位／15時間	外部講師
目的	医療現場における事故を通し、患者の安全及び組織としての安全を守ることの重要性について理解を深める。			
目標	1. 事故防止の基本的な考え方がわかる。 2. 診療の補助・療養上の世話の事故防止を理解する。 3. 労働安全衛生上の事故防止を理解する。			
評価方法	筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	事故防止の考え方を学ぶ	A. 医療事故と看護業務 B. 看護事故の構造 C. 看護事故防止の考え方	
2	/	診療の補助時の事故防止	I. 患者に投与する業務における事故防止	
3	/		II. 継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止	
4	/	療養の世話の事故防止	A. 転倒・転落事故防止 B. 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 C. 異食事故防止 D. 入浴中の事故防止	
5	/	業務領域をこえて共通する勘違いと発生要因	A. 業務領域をこえて共通する患者間違い B. 間違いを誘発する負荷状況 C. 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	
		医療安全とコミュニケーション	A. チーム医療におけるコミュニケーションの重要性 B. 安全な医療・看護のための医療職間のコミュニケーション C. 安全な医療・看護のための患者・家族とのコミュニケーション	
6	/	地域における在宅療養者の安全	A. 訪問看護師が行う医療行為における事故防止 B. 気管切開下陽圧換気療法と在宅酸素療法での安全 C. 服薬支援と薬剤の管理 D. 家庭内の転倒・転落と火災・熱傷・ガス漏れ事故防止	
		看護師の労働安全衛生上の事故防止	A. 職業安全 B. 抗がん剤の曝露 C. 放射線被曝 D. ラテックスアレルギー E. 腰痛 F. 病院および訪問看護での暴力	
7	/	組織的な安全管理体制への取り組み	A. 組織としての医療安全対策 B. 家族看護の実践システムとしての事故防止の具体例 C. 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応	
		医療安全対策の国内外の潮流	A. わが国の医療安全対策の潮流 B. 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携 C. 産業界から学ぶーヒューマンファクターズを取り入れ	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院				
備考: 医学博士				

授業科目名の区分		専門分野(看護の統合と実践)		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
臨床看護技術	講義・演習	3年次前期	1単位/15時間	専任教員
目的	既習の看護技術を振り返り、根拠に基づく看護技術を統合し実践する。 自らの看護技術向上のための学習課題を明確にし、卒業後も自己研鑽を続ける心構えができる。			
目標	1. 日常生活援助技術を、科学的根拠を明確にし、安全・安楽に注目しながら手際よく実施できる。 2. 対象の身体的情報を正確に得るためのフィジカルアセスメント能力を身につける。 3. 診療の補助技術の実施及び観察事項をモデル人形を使用し確認できる。 4. 卒後の臨床現場にスムーズに適応することができる。			
評価方法	筆記試験及び技術(100%)			
回	月日	授業内容	内容	担当者
1	/	日常生活援助技術	1. 模擬患者を設定し、事前のアセスメントを行う。 2. 安全・安楽に行える方法を考える。 3. 実施。 4. 振り返りをし、自己評価を行う。不足部分を明確にする。	
2	/			
3	/	フィジカルアセスメント	1. 学生間で実際にフィジカルアセスメントを行う。 2. アセスメント後の記載を医学用語を使用して記載する。 3. 振り返りをし、自己評価を行う。不足部分を明確にする。	
4	/			
5	/	与薬の技術	・点滴静脈内注射 ・輸液ポンプの操作 ・シリンジポンプの操作 ・中心静脈カテーテル ・薬剤管理 ・インスリン ・輸血管理	
6	/			
7	/	ドレーン管理	・膀胱留置カテーテル ・PEGカテーテル交換 ・胸腔ドレーン管理 ・気管内吸引 ・経管栄養管理 ・ストーマ管理	
8	/			
履修者へのコメント:事前の科学的根拠の明確なレポートを求める				
使用テキスト:系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護が見えるVOL.3 メディックメディア				
備考:基礎看護・成人看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
統合シミュレーション	講義	3年次前期	1単位/15時間	専任教員
目的	看護の統合と実践実習に向けて、根拠のある臨床判断を行い、看護が実践できる基本的な能力を養う。 また、看護管理、看護師の役割、態度を学ぶ。			
目標	1. 基礎分野から専門分野までに学んだ看護の知識・技術を基に、複合した治療処置、生活援助技術を必要とする対象の援助を考え、技術の実践を行う。 2. 患者の看護の優先度、および複数患者の看護の優先度を考えることができる。 3. 自己の看護技術の到達度と課題を明確にする。			
評価方法	筆記試験及びレポート(100%)			
回	月日	授業内容	内容	担当者
1	/	統合分野の位置づけと本科目の位置づけ	看護の仕事とは 1. 現在、考える看護の仕事とは何か 2. 看護師として働くとは 3. 複数患者を受け持つための情報収集 4. 一日のスケジュールの立て方と業務時間の管理	
2	/	複数患者の看護	課題 1. 患者A・Bそれぞれの状態 2. 患者A・Bそれぞれに必要な看護 3. 患者A・Bそれぞれに必要な看護の優先度 4. 患者間における優先順位とその理由 5. 報告・連絡・相談の必要性 1～5についてグループワークする	
3	/			
4	/			発表とまとめ
5	/	複数患者の多重課題の看護実践	1. 多重課題の危険性 2. 多重課題発生時の対処の原則 3. とるべき行動と優先順位、またその理由 - 課題事例を基に考える -	
6	/			
7	/	看護技術演習	課題 複合的な援助を要する患者への援助 1. 必要な援助方法を考える 2. 演習計画の立案 3. 計画に基づいて、必要な援助を実施 4. 評価	
8	/			
履修者へのコメント:看護の統合と実践実習開始前の重要な授業です。 看護師としてチームのメンバーと看護を実践していくには、患者の安全・安楽を踏まえ、看護の優先度を考えて援助することが求められます。				
使用テキスト:系統看護学講座 1年次・2年次・3年次のテキストすべて 医学書院				
備考:実習開始前に実習担当教員と学生のグループワークを持つ。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
成人看護学概論	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的	成人期にある対象の生活と健康に関する知識を学び、多様な健康状態や健康問題に対応するための考え方や方法を学ぶ。			
目標	1. その人にとって最適な健康を促進、維持、増進するための看護援助を理解し活用できる。 2. 健康状態、健康問題に対する看護の実際を健康レベルごとに理解し活用できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	成人と生活	A. 対象の理解: 大人になること B. 対象の生活: 働いて生活を営むこと	
2	/	生活と健康	A. 成人を取りまく環境と生活から見た健康 B. 生活と健康をまもりはぐくむシステム	
3	/	成人への看護アプローチの基本	A. 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 B. 症状マネジメント C. 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 D. 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ E. チームアプローチ	
4	/		F. 看護におけるマネジメント G. 看護実践における倫理的判断 H. 意思決定支援 I. 家族支援	
5	/	ヘルスプロモーションと看護	A. ヘルスプロモーションと看護 B. ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動	
6	/	健康をおびやかす要因と看護	A. 健康バランスの構成要素 B. 健康バランスに影響を及ぼす要因 C. 生活行動がもたらす健康問題とその予防	
7	/	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	A. 健康の急激な破綻	
8	/		B. 急性期にある人の看護	
9	/	慢性病とともに生きる人を支える看護	A. 慢性病とともに生きる人を理解する B. 慢性病とともに生きる人を支える	
10	/	障害がある人の生活とリハビリテーション	A. 障害がある人とリハビリテーション B. 障害がある人とその生活を支援する看護	
11	/	人生の最期のときを支える看護	A. 人生の最期のときにおける医療の現状	
12	/		B. 人生の最期のときを過ごしている人の理解 C. 人生の最期のときを支える看護	
13	/	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援	A. 移行支援の基礎知識 B. 継続的な移行を支える支援の実際	
14	/	新たな治療法、先端医療と看護	A. 新たな治療法・医療処置の開発・普及 B. 新たな治療法、医療処置を受ける患者・家族の看護	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院				
備考: 基礎看護・成人看護の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅰ (セルフマネジメント)	講義	2年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的	生涯にわたり長期的なコントロールを必要とする対象者・家族の特徴を知り、その人らしい健康生活を維持するための看護の方法を学ぶ。			
目標	1. 健康回復に必要な看護を実践するための方法を理解する。 2. 腎・泌尿器疾患を持つ対象者に必要な看護援助が理解できる。 3. 内分泌・代謝系疾患を持つ対象者に必要な看護援助が理解できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	慢性疾患とセルフマネジメント	慢性的な経過をたどる疾患の理解。 生活習慣病及び難病の理解	
2	/		慢性期治療の特徴。慢性期の患者のニーズ セルフケア獲得に向けた支援。	
3	/	病状コントロールのセルフケアマネジメント	患者・家族指導(腎・泌尿器疾患) ・セルフケアへの支援 ・在宅ケアへの援助	
4	/		患者・家族指導(内分泌・代謝疾患) ・セルフケアへの支援 ・在宅ケアへの援助	
5	/	【腎・泌尿器】 腎・泌尿器疾患を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴と看護の役割	
6	/	患者の看護	I 疾患を持つ患者の経過と看護 II 症状に対する看護	
7	/		III 検査を受ける患者の看護 IV 内科的治療を受ける患者の看護	
8	/		V 泌尿器科的治療を受ける患者の看護	
9	/		事例による看護過程の展開 《腎不全患者の看護》	
10	/		【内分泌・代謝系】 内分泌・代謝の看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴と看護の役割
11	/	患者の看護	A. 疾患を持つ患者の経過と看護	
12	/		B. 内分泌疾患患者の看護	
13	/		C. 代謝疾患患者の看護	
14	/		事例による看護過程の展開 《糖尿病患者の看護》	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院				
備考: 成人看護学の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	講義形態	開講時期	単位/時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅱ (健康危機状況時の看護)	講義	2年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	急激な健康レベルの低下や生命の危機状態にある対象の治療や手術療法を学ぶ。 対象者の身体的・心理的・社会的課題を明確にし、科学的思考に基づいた看護臨床判断能力を養う。			
目標	1. 健康状態が急激に変化する患者、生命の危機状態に在る患者の身体的・心理的・社会的課題を理解し、科学的根拠に基づいた看護援助の必要性がわかる。 2. 循環器疾患患者の基本的な看護が理解できる。 3. 血液・造血器疾患患者の基本的な看護が理解できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【集中治療を受ける患者の看護】 生命の危機状態にある対象の理解	A. 集中治療・看護の概念と役割 B. 集中治療室 ①ICUとは ②ICUの管理・運営と設備的条件	
2	/	生命の危機状態にある対象の理解	C. 集中治療における看護の実際 ①集中治療を受ける前の看護 ②集中治療中の患者の看護 ③回復に向けた看護	
3	/	【循環器】 循環器の看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴と看護の役割	
4	/	患者の看護	A. 疾患を持つ患者の経過と看護 B. 症状に対する看護	
5	/		C. 検査を受ける患者の看護 D. 治療を受ける患者の看護	
6	/		E. 疾患を持つ患者の看護	
7	/		事例による看護過程の展開 《心不全患者の看護》	
8	/	【血液・造血器】 血液・造血器疾患の看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴と看護の役割	
9	/	患者の看護	A. 疾患を持つ患者の経過と看護 B. 主要症状を有する患者の看護	
10	/		C. 検査を受ける患者の看護 D. 造血器腫瘍患者の看護	
11	/		事例による看護過程の展開 《急性骨髄性白血病患者の寛解導入時》	
12	/	周手術期看護の概論	A. 手術を受ける患者の状況	
13	/		B. チーム医療と看護師の役割 C. インフォームドコンセント	
14	/		D. 周手術期における安全管理 E. 院内感染予防	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 成人看護学3 循環器 成人看護学3 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学4 血液・造血器 成人看護学4 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院				
備考: 基礎看護学・成人看護学・老年看護学の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	内訳	開講時期	単位／時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅲ (セルフケア再獲得に向けての看護)	講義	2年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的	回復期にある患者や家族が、障害を受容し、能力を發揮して、自立して生活できる力を獲得するための看護の方法を学ぶ。			
目標	1. 健康回復に必要な看護を実践するための方法を理解する。 2. 消化器疾患患者の基本的な看護が理解できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	／	【消化器】 消化器の看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴と看護の役割	
2	／	患者の看護	A. 疾患を持つ患者の経過と看護	
3	／		B. 症状に対する看護	
4	／		C. 検査を受ける患者の看護	
5	／		D. 治療を受ける患者の看護	
6	／		E. 疾患を持つ患者の看護	
7	／		E. 疾患を持つ患者の看護	
8	／		事例による看護過程の展開 《胃がんで手術を受ける患者の看護》	
9	／		【歯・口腔】 歯・口腔の看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴と看護の役割
		患者の看護	A. 疾患を持つ患者の経過と看護 B. 症状に対する看護 C. 治療・処置を受ける患者の看護	
10	／	【脳・神経】 脳・神経を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴と看護の役割	
11	／	患者の看護	A. 疾患を持つ患者の経過と看護 B. 症状・障害を持つ患者の看護 C. 治療・処置をうける患者の看護	
12	／		D. 疾患を持つ患者の看護	
13	／		D. 疾患を持つ患者の看護	
14	／		事例による看護過程の展開 《パーキンソン病患者の看護》	
15	／		テスト	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 成人看護学5 消化器 成人看護学5 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学7 脳・神経 成人看護学7 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学15 歯・口腔 成人看護学15 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院				
備考: 成人看護・老年看護の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅳ (セルフケア再獲得に向けての看護)	講義	2年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的	回復期にある対象者や家族が障害を受容し、意欲を持って自分の能力を最大限発揮し、自立・自律して生活できる力を獲得するための看護の方法を学ぶ。			
目標	1. 健康回復に必要な看護を実践するための方法を理解する。 2. 回復期にある対象の特徴と感覚器の障害を関連させ、健康回復に必要な看護を実践する方法を理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【運動器】 看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴 C. 姿勢・動作モデルとしての看護の役割	
2	/	患者の看護	A. 疾患をもつ患者の経過と看護 B. 援助のための主な知識と技術	
3	/		C. 症状に対する看護 D. 検査・診断を受ける患者の看護 E. 保存療法を受ける患者の看護	
4	/		E. 保存療法を受ける患者の看護 F. 手術を受ける患者の看護 G. 疾患をもつ患者の看護	
5	/		事例による看護過程の展開 《大腿骨頸部骨折による人口骨頭置換術後の患者の看護》	
6	/		【耳鼻咽喉】 看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴
7	/	患者の看護	A. 疾患をもつ患者の経過と看護 B. 症状に対する看護 C. 検査を受ける患者の看護 D. 治療を受ける患者の看護 E. 疾患を持つ患者の看護	
8	/	【眼】 看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴、看護の役割	
		患者の看護	A. 経過と看護 B. 症状 C. 診察時 D. 検査時 E. 治療・処置 F. 手術時 それぞれの看護	
9	/	【皮膚】 看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴 と看護の役割	
10	/		A. 疾患をもつ患者の経過と看護 B. スキンケア C. 症状に対する看護	
11	/		D. 検査・治療・処置を受ける患者の看護 F. 疾患を持つ患者の看護	
12	/	【アレルギー】 看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴と看護の役割 患者の看護	
13	/	【感染症】 看護を学ぶにあたって	A. あなたを取り巻く感染症 B. 患者の特徴と看護の役割 C. 看護を取り巻く感染症の問題 D. あなた自身を守るために 患者の看護	
14	/	【膠原病】 看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴と看護の役割 患者の看護	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 成人看護学10 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学13 眼 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション 医学書院				
備考: 成人看護・老年看護の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	内訳	開講時期	単位/時間	担当教員
成人看護学方法論Ⅴ (緩和ケアの看護)	講義	2年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的	人生の最期の時を迎える対象者や家族が苦痛や苦悩を知り、尊厳ある人間的生命を完結するための支える看護について学ぶ。授業を通して自らの死生観を考える。			
目標	1. 終末期を迎える対象者のQOLを充実するために必要な心理的援助や緩和ケアについて理解する。 2. 呼吸器疾患患者の看護の基本を理解する。 3. 女性生殖器疾患患者の看護の基本を理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	【呼吸器】 看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴 C. 看護の役割	
2	/	患者の看護	A. 疾患を持つ患者の経過と看護 ①慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の経過と看護 ②肺がん患者の経過と看護	
3	/		B. 症状に対する看護 ①喀痰・咳嗽 ②血痰・咯血 ③胸痛 ④呼吸困難	
4	/		C. 検査を受ける患者の看護 D. 治療・処置を受ける患者の看護	
5	/		E. 疾患を持つ患者の看護 ①肺炎 ②結核 ③気管支喘息 ④慢性閉塞性肺疾患	
6	/		事例による看護過程の展開 《慢性閉塞性肺疾患の急性増悪により緊急入院した患者の看護》	
7	/		【女性生殖器】 看護を学ぶにあたって	A. 医療の動向と看護 B. 患者の特徴 C. 看護の役割
8	/	患者の看護	A. 疾患を持つ患者の経過と看護 B. 外来・病棟における看護 C. 診療介助における看護	
9	/		D. 症状とその病態に対する看護 E. 臓器別疾患・機能的疾患患者の看護 F. 手術を受ける患者の看護	
10	/		事例による看護過程の展開 《乳がん患者の看護》	
11	/		緩和ケア	緩和ケアの現状と展望 緩和ケアにおけるチームアプローチ 緩和ケアにおけるコミュニケーション
12	/		緩和ケアにおける倫理的課題 全人的ケアの実際 緩和ケアの広がり	
13	/		臨死期のケア(在宅看護:終末期の療養者に対する看護) 家族のケア	
14	/		医療スタッフのケア 緩和ケアに関する教育 緩和ケアにおける研究	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 成人看護学2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門 成人看護学12 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院				
備考: 成人看護・老年看護の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
老年看護学概論	講義	1年次後期	1単位／30時間	外部講師
目的	高齢社会にある我が国の現状について学び、老年期にある人々の健康問題と保健・医療・福祉の課題、老年看護の役割について学ぶ。また、ヘルスプロモーションの視点から、高齢者の暮らしぶりや健康への配慮の仕方、知識・技術を活かした社会への参加など高齢者の生き方の多様性やパワーについて学ぶ。			
目標	1. 老年期を生きる人について理解する。 2. 加齢に伴う心身の変化と特徴を理解する。 3. 高齢社会を取り巻く社会と保健医療福祉制度を理解する。 4. 高齢者の人権と倫理問題について理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	老いるということ、老いを生きるということ	A. 老年看護を学ぶ入口 B. 老いるということ	
2	/		C. 老いを生きるということ	
3	/	超高齢社会と社会保障	A. 超高齢社会の統計的輪郭	
4	/		B. 高齢社会における保健医療福祉の動向	
5	/		C. 高齢者の権利擁護	
6	/	老年看護のなりたち	A. 老年看護のなりたち B. 老年看護の役割	
7	/		C. 老年看護における理論・概念の活用 D. 老年看護に携わる者の責務	
8	/	高齢者のヘルスアセスメント	A. ヘルスアセスメントの基本 ①ヘルスアセスメントの枠組み ②高齢者総合機能評価	
9	/		B. 身体の高齢変化とアセスメント	
10	/	高齢者の生活機能を整える看護	A. 日常生活を支える基本的活動	
11	/		B. 食事・食生活	
12	/		C. 排泄 D. 清潔	
13	/		E. 生活リズム F. コミュニケーション	
14	/		G. セクシュアリティ H. 社会参加	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院				
備考: 老年看護学の教育および臨床経験のある教員				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	専任教員
高齢者支援論	講義	1年次後期	1単位/15時間	
目的	高齢者の特徴と、身体的機能や社会環境が日常生活に及ぼす影響について学ぶ。倫理的課題、看護の役割について学ぶ。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢による身体的変化と健康障害を理解する。 2. 高齢者の生活の場の特徴と日常生活に及ぼす影響がわかる。 3. 高齢者の日常生活を支える支援について理解する。 4. 高齢者の安全を考えた看護(レクリエーションの計画・実施)がわかる。 5. 高齢者の倫理的課題が理解できる。 			
評価方法	1. 筆記試験100%			
1	/	高齢者理解の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の定義 2. 加齢に伴う変化(身体的・心理的・社会的)の特徴(事前課題) 3. 老年期の健康指標 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病構造と有病率・有訴率・通院率 2) 受領行動と受領率 3) 平均寿命・死因・死亡場所・健康寿命 課題: 来週に講義までにメディア・新聞・(学生の居住している)地域に特徴的な高齢者へ支援などに関する情報を集めてくる	
2	/	高齢者の生活について考える(GW)	<ol style="list-style-type: none"> 1. GW: 課題の発表から高齢者の状況を知る(健康・暮らし・コミュニティ・社会参加・経済状態) 2. 高齢者の時代考察 3. 高齢者の喪失体験演習 	
3	/	高齢者のコミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者のコミュニケーションの特徴 2. 高齢者とのかかわり方の原則 3. 老人性難聴・失語症・構音障害 	
4	/	高齢者の生活の中でのリスク	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の暮らす場におけるリスク 2. 転倒・転落・褥瘡 3. せん妄発症 4. 薬物療法に伴うリスク 	
5	/	高齢者に関する保健医療福祉制度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を支える制度 2. 高齢者を支える社会資源 	
6	/	高齢者の権利擁護と倫理課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の自己決定(本人の意思と家族の意思) 2. 高齢者虐待と身体拘束 	
7	/	高齢者の安全を考えた看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. アクティブエイジング・高齢者と社会参加 2. アクティビティケアについて(レクリエーション実践) 	
8	/	テスト		
履修者へのコメント 講義開始に当たり、高齢者の理解を深めるために、メディアのニュースや新聞、広報誌などに目を向け、積極的に情報を集め講義に望む。				
使用テキスト 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院				
備考: 看護師として総合病院での実務経験あり。				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
老年看護学方法論Ⅰ	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的	高齢者に起こりやすい症状や生活機能障害、健康障害など、対象に応じた看護について科学的根拠に基づいた基礎的な臨床判断能力を学ぶ。			
目標	1. 加齢に伴う機能の変化とその看護が理解できる。 2. 高齢者の健康問題と看護について理解できる。 3. 日常生活を支える基本的活動について理解できる。 4. 高齢者の生活機能、生活・療養の場における看護について理解できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	「超高齢社会」における老年看護への期待	A.高齢者の定義 B.「超高齢社会の到来」 C.高齢者医療の課題と重要性 D.老年看護への期待	
2	/	高齢者の生理的特徴	A.「老化」とは B.老化と寿命 C.認知・知覚機能の老化	
3	/		D.呼吸・循環機能の老化 E.消化・吸収・代謝機能の老化	
4	/		F.排泄機能の老化 G.免疫機能の老化 H.運動機能の老化 I.性機能の老化	
5	/	老年症候群	A.老年症候群の特徴 B.おもに急性疾患に付随する症候 C.おもに慢性疾患に付随する症候	
6	/		D.おもにADL低下に合併する症候 E.フレイル ①フレイルとは ②フレイルの基準 ③フレイルの原因 ④フレイルの進行とサルコペニア ⑤フレイルの治療と予防	
7	/	高齢者の健康状態の把握と総合評価	A.高齢者のフィジカルアセスメント B.バイタルサイン測定・身体測定	
8	/		C.栄養評価 D.検査	
9	/		E.訪問場面での健康状態の把握 F.高齢者総合機能評価	
10	/	高齢者の疾患の特徴	A.認知症 B.精神・神経疾患	
11	/		C.循環器系の疾患 D.呼吸器系の疾患	
12	/		E.消化器系の疾患 F.内分泌・代謝系の疾患	
13	/		G.自己免疫疾患 H.血液の疾患 I.腎・泌尿器系の疾患 J.運動器の疾患	
14	/		K.皮膚の疾患 L.感覚器の疾患 M.歯・口腔の疾患 N.感染症	
15	/		テスト	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院				
備考: 老年看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
小児看護学概論	講義	1年次後期	1単位/15時間	専任教員
目的	小児看護の変遷を学び、看護を必要とする対象の特徴について学ぶ。 小児の成長発達について学び、小児看護の理念・役割を理解する。			
目標	1. 小児看護の変遷や小児の社会的現状から、小児看護の役割を理解する。 2. 子どもの基本的な権利と擁護に関わる法律、小児看護における倫理を理解する。 3. 子どもの成長・発達過程(形態・機能・心理・環境的特徴)を理解する。 4. 子どもの成長・発達に応じた関わり方、援助の概要を理解する。 5. 現代社会における子どもや家族を取り巻く諸問題や課題を理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	小児看護の特徴と理念	A.小児看護の目ざすところ B.小児と家族の諸統計 C.小児看護の変遷 D.小児看護における倫理 E.小児看護の課題	
2	/	子どもの成長・発達	A.成長・発達とは B.成長・発達の進み方(一般的原則) C.成長・発達に影響する因子 D.成長の評価 E.発達の評価	
3	/	新生児・乳児	A.新生児 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③各機能の発達 ④新生児の養育および看護 B.乳児 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧乳児の養育および看護	
4	/	幼児・学童	A.幼児 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚機能 ④運動機能 ⑤知的機能 ⑥コミュニケーション機能 ⑦情緒・社会的機能 ⑧幼児の養育および看護 B.学童 ①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③感覚・運動機能 ④知的・情緒機能 ⑤社会的機能 ⑥不適応行動・症状 ⑦学童を取り巻く諸環境 ⑧学童の養育および看護	
5	/	思春期・青年期の子供	①形態的特徴 ②身体生理の特徴 ③知的・情緒(心理)的・社会的機能 ④生活の特徴 ⑤心理・社会的適応に関する問題 ⑥飲酒・喫煙 ⑦性に関する健康問題 ⑧反社会的・逸脱行動 ⑨事故・外傷 ⑩思春期の看護	
6	/	家族の特徴とアセスメント	A.子どもにとっての家族とは B.家族アセスメント	
7	/	子どもと家族を取り巻く社会	A.児童福祉 B.母子保健 C.医療費の支援 D.予防接種 E.学校保健 F.食育 G.特別支援教育 H.臓器移植	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:小児看護は生命の発生から始まり、成人への移行期まで連続性のある対象として広くとらえる。成長過程の各時期のニーズに応じた支援を提供するための基礎を学ぶ				
使用テキスト:系統看護学講座 専門 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院				
備考:基礎看護・小児看護の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
小児看護学方法論Ⅰ	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的	小児と家族を取り巻く社会・環境・疾病の経過に応じ、科学的根拠に基づいた基本的な看護について学ぶ。小児看護に必要なアセスメントの基本を学ぶ。			
目標	1. 病気や障害を持つ子供と家族の看護について理解する。 2. 子どもの状況に特徴づけられる看護について理解する。 3. 子どもにおける疾病の経過と看護について理解できる。 4. 子どものアセスメント技術について理解できる。 5. 症状を示す子どもの看護について理解できる。 6. 検査・処置を受ける子どもの看護について理解できる。 7. 障害のある子どもの看護について理解できる。 8. 子どもの虐待と看護について理解できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	A. 病気・障害が子どもと家族に与える影響 B. 子どもの健康問題と看護	
2	/	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	A. 入院中の子どもと家族の看護 B. 外来における子どもと家族の看護	
3	/		C. 在宅療養中の子どもと家族の看護 D. 災害時の子どもと家族の看護	
4	/		A. 慢性期にある子どもと家族の看護 B. 急性期にある子どもと家族の看護	
5	/	子どもにおける疾病の経過と看護	C. 周手術期の子どもと家族の看護 D. 終末期にある子どもと家族の看護	
6	/	子どものアセスメント	A. アセスメントに必要な技術 ①コミュニケーション ②バイタルサイン ③身体測定	
7	/		B. 身体的アセスメント ①一般状態 ②眼 ③耳 ④顔面・鼻・口腔 ⑤呼吸 ⑥心臓・血管系 ⑦腹部 ⑧筋・骨格系 ⑨神経系 ⑩生殖器 ⑪リンパ系 ⑫皮膚・爪・体毛	
8	/	症状を示す子どもの看護	①不機嫌 ②啼泣 ③痛み ④呼吸困難 ⑤チアノーゼ ⑥ショック	
9	/		⑦意識障害 ⑧痙攣 ⑨発熱 ⑩嘔吐 ⑪下痢 ⑫便秘	
10	/		⑬脱水 ⑭浮腫 ⑮出血 ⑯貧血 ⑰発疹 ⑱黄疸	
11	/	検査・処置を受ける子どもの看護	A. 検査・処置総論 B. 薬物動態と薬用量の決定	
12	/		C. 検査・処置各論	
13	/	障害のある子どもと家族看護	A. 障害の捉え方 B. 障害のある子どもと家族の特徴 C. 障害のある子どもと家族への社会的支援	
14	/	子どもの虐待と看護	①子どもの虐待への対策の経緯と現状 ②子どもの虐待とは ③リスク要因と発生子防・早期発見 ④子どもの虐待に特徴的にみられる状況 ⑤求められるケア	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 小児看護学1 小児臨床看護総論 医学書院				
備考: 基礎看護・小児看護の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
小児看護学方法論Ⅱ	講義	2年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	健康障害を持つ子どもと家族に対して、対象に応じた看護の役割を学び、科学的な根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。			
目標	1. おもな小児疾患、症状に対する看護について理解できる。 2. 疾患を持つ子どもと家族の看護について理解できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護	染色体異常 常染色体異常、性染色体異常、ダウン症候群、⑩トリソミーの子どもと看護	
2	/	新生児の看護	脳性麻痺、新生児マススクリーニング 他	
3	/	代謝疾患と看護	I型糖尿病の看護	
4	/			
5	/			
6	/	気管支喘息と看護	アレルギー疾患、呼吸器疾患と看護	
7	/			
8	/			
9	/	感染症と看護	ウイルス感染症、細菌感染症と看護	
10	/	循環器疾患と看護	先天性心疾患と看護	
11	/			
12	/			川崎病と看護
13	/	消化器疾患と看護	口唇口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプリング病、鎖肛、腸重積と看護	
14	/			
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院				
備考: 基礎看護・小児看護の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
小児看護学方法論Ⅲ	講義・演習	2年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	健康障害を持つ子どもと家族に対して、対象に応じた看護の役割を学び、科学的根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。			
目標	1. おもな小児疾患、症状に対する看護について理解できる。 2. 看護過程の展開をとおして、子どもと家族の看護について理解できる。 3. プレパレーションの意義と方法について理解できる。			
評価方法	1.筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	血液・造血器疾患、悪性新生物と看護	いちご状血管腫、急性リンパ性白血病と看護	
2	/	血液・造血器疾患、悪性新生物と看護	急性リンパ性白血病と看護	
3	/	腎疾患と看護	ネフローゼ症候群と看護	
4	/	腎疾患と看護	急性糸球体腎炎と看護	
5	/	精神疾患と看護	発達障害と看護	
6	/	事故・外傷と看護	子どもの事故と看護	
7	/	小児の看護技術演習	バイタルサイン測定、採尿パック、身長測定、頭部、胸部測定、プレパレーション	
8	/	事例による看護過程の展開	《1型糖尿病の子どものケア》	
9	/			
10	/			
11	/			
12	/			
13	/			
14	/			
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト:系統看護学講座 専門 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院				
備考:基礎看護・小児看護の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
母性看護学概論	講義	1年次後期	1単位/15時間	専任教員
目的	母性看護の概念、母性各期の特徴と発達課題を理解し、母性看護の役割を学ぶ。女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を把握し、母性の保健対策を学ぶ。			
目標	1. 女性の一生としての母性を、各ライフステージ毎に理解できる。 2. 母性看護の変遷と現状が理解できる。 3. 母子保健行政と母性に関する法律が理解できる。 4. ライフサイクルにおける女性の健康について理解できる。 5. リプロダクティブヘルスケアについて理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	母性看護の基盤となる概念	A. 母性とは B. 母子関係と家族発達 C. セクシュアリティ D. リプロダクティブヘルス/ライツ E. ヘルスプロモーション F. 母性看護のあり方 G. 母性看護における倫理 H. 母性看護における安全・事故予防	
2	/	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	A. 母性看護の歴史的変遷と現状 B. 母性看護の提供システム	
3	/	母性看護の対象の理解	A. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 B. 女性のライフサイクルと家族 C. 母性の発達・成熟・継承	
4	/	母性看護に必要な看護技術	A. 母性看護における看護過程 B. 情報収集・アセスメント技術 C. 母性看護に使われる看護技術	
5	/	女性のライフステージ各期における看護	A. ライフサイクルにおける女性の健康と看護 B. 思春期の健康と看護 C. 性成熟期の健康と看護 D. 更年期・老年期の健康と看護	
6	/	リプロダクティブヘルスケア	A. 家族計画 B. 性感染症とその予防 C. HIVに感染した女性に対する看護 D. 人工妊娠中絶と看護	
7	/	リプロダクティブヘルスケア	E. 喫煙と女性の健康 F. 性暴力を受けた女性に対する看護 G. 児童虐待と看護 H. 国際化社会と看護	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院				
備考: 助産師、母性看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
母性看護学方法論Ⅰ	講義・演習	2年次前期	1単位／30時間	専任教員
目的	妊娠期にある対象について、身体的・心理的・社会的特徴および胎児の発育について理解し、母子が健康な妊娠期を過ごすための、科学的根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。			
目標	1. 非妊娠時の女性への身体的・精神的・社会的側面から看護を理解する。 2. リプロダクティブヘルスの必要性がわかる。 3. 妊娠中の女性の身体的・精神的・社会的特徴と、胎児の成長発達について理解できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって	A. 子供を産み育てること B. 母親になるということ C. 不妊治療を受けて妊娠した妊産褥婦の姿 D. 子どもを産み育てることとその看護を学ぶにあたって	
2	/	出生前からのリプロダクティブヘルスケア	A. リプロダクティブヘルスケアの必要性 B. 遺伝相談	
3		出生前からのリプロダクティブヘルスケア	C. 不妊治療と看護	
4	/	妊娠期における看護	A. 妊娠期の身体的特性 ①妊娠の生理 ②胎児の発育とその生理	
5	/	妊娠期における看護	③母体の生理的変化	
6	/	妊娠期における看護	B. 妊娠期の心理・社会的特性 ①妊婦の心理 ②妊婦と家族および社会	
7	/	妊娠期における看護	C. 妊婦と胎児のアセスメント ①妊娠その診断 ②妊娠期に行う検査とその目的	
8	/	妊娠期における看護	③胎児の発育と健康状態の診断	
9	/	妊娠期における看護	④妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント	
10	/	妊娠期における看護	D. 妊婦と家族の看護 ①妊婦が受ける母子保健サービス ②妊婦の健康相談、教育の実際 ③親になるための準備教育	
11	/	妊娠期における看護	看護過程の展開	
12	/	妊娠期における看護	看護過程の展開	
13	/	妊娠期における看護【演習】	妊娠期の健康観察	
14	/	妊娠期における看護【演習】	妊娠期の健康観察	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院				
備考: 助産師、母性看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
母性看護学方法論Ⅱ	講義	2年次前期	1単位/30時間	外部講師
目的	正常に経過する分娩各期の対象の特徴について学ぶ。母子にとって安全・安楽な分娩期を過ごすために、科学的根拠に基づいた分娩各期の基礎的な看護を理解する。			
目標	1. 分娩期の看護を理解する。 2. 分娩の経過を理解する。 3. 新生児の生理的特徴と経過について理解する。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	分娩期における看護	A. 分娩の要素 ①分娩とは ②分娩の3要素 ③胎児と子宮および骨盤との関係 ④分娩の機序	
2	/	分娩期における看護	B. 分娩の経過 ①分娩の進行と産婦の身体的変化 ②産婦の身体的変化 ③産痛 ④分娩が胎児に及ぼす影響 ⑤産婦の心理・社会的変化	
3	/	分娩期における看護	C. 産婦・胎児・家族のアセスメント ①産婦と胎児の健康状態のアセスメント	
4	/	分娩期における看護	②産婦と家族の心理・社会面のアセスメント ③産婦・家族における看護上の問題の明確化	
5	/	分娩期における看護	D. 産婦と家族の看護 ①看護目標と産婦のニード ②安全分娩への看護	
6	/	分娩期における看護	③安楽な分娩への看護 ④出産体験が肯定的になるための看護 ⑤基本的ニードに関する看護 ⑥家族発達を促す看護	
7	/	分娩期における看護	E. 分娩期の看護の実際 ①分娩第1期の子宮口開大3～7cmまでの看護	
8	/	分娩期における看護	②分娩第1期活動期の終盤(子宮口開大7～8cm以上全開大までの看護) ③分娩第3期の看護	
9	/	分娩期における看護	④分娩第3・4期の看護 ⑤無痛分娩と看護	
10		新生児期における看護	A. 新生児の生理 ①新生児とは ②新生児の機能	
11	/	新生児期における看護	B. 新生児のアセスメント ①新生児の診断 ②新生児の健康状態のアセスメント	
12	/	新生児期における看護	C. 新生児の看護 ①出生直後の看護 ②出生後から退院までの看護 ③生後1か月検診に向けた退院時の看護	
13	/	新生児期における看護	新生児のフィジカルアセスメント	
14	/	新生児期における看護	沐浴	
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院				
備考: 助産師				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
母性看護学方法論Ⅲ	講義・演習	2年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的	褥婦の正常な経過や生理的変化について学び、正常に経過するための援助、異常時の援助について科学的な根拠に基づいた基礎的な看護を学ぶ。			
目標	1. 産褥期の女性への看護を理解できる。 2. 妊娠・分娩・新生児・褥婦の異常を知り、対象に応じた看護がわかる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	産褥期における看護	A. 産褥経過 B. 褥婦のアセスメント	
2	/	産褥期における看護	C. 褥婦と家族の看護 D. 施設退院後の看護	
	/	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 【妊娠の異常と看護】	A. ハイリスク妊娠 B. 妊娠期の感染症 C. 妊娠疾患 D. 多胎妊娠	
4	/	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 【妊娠の異常と看護】	E. 妊娠持続期間の異常 F. 異所性妊娠 G. ハイリスク妊婦の看護	
5	/	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 【分娩の異常と看護】	A. 産道の異常 B. 娩出力の異常 C. 胎児の異常による分娩障害 D. 胎児の付属物の異常 E. 胎児機能不全	
6	/	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 【分娩の異常と看護】	F. 分娩時の損傷 G. 分娩第3期および分娩直後の異常 H. 分娩時異常出血 I. 産科処置と産科手術 J. 異常のある産婦の看護 K. 異常分娩時の産婦の看護 L. 分娩時異常出血のある産婦の看護	
7	/	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 【新生児の異常と看護】	A. 新生児仮死 B. 分娩外傷 C. 低出生体重児	
8	/	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 【新生児の異常と看護】	D. 高ビリルビン血症 E. 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症	
9	/	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 【産褥の異常と看護】	A. 子宮復古不全 B. 産褥期の発熱 C. 産褥血栓症 D. 精神障害 E. 異常のある褥婦の看護	
10	/	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 【産褥の異常と看護】	F. 育児に困難さをかかえる母親への看護 G. 児を亡くした褥婦・家族の看護	
11	/	妊娠・分娩・新生児・産褥の異常 【メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援】	A. 妊娠・出産・育児への影響 B. 治療および看護	
12	/	事例による看護過程の展開		
13	/		妊娠期・分娩・新生児・産褥の異常の看護過程の展開	
14	/			
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院				
備考: 助産師、母性看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
精神看護学概論	講義	1年次後期	1単位/30時間	専任教員
目的	人格を支える精神の活動、精神の健康と障害、人間の心のしくみと人格の発達や人間関係について学ぶ。精神障害という捉え方を学び、対象や家族の支援の基本的な考え方を学ぶ。			
目標	1. 看護における精神看護の果たす役割について理解する。 2. 精神看護の身体的・心理的・社会的特徴について理解できる。 3. 精神障害者を支える、保健・医療・福祉制度について理解できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	精神看護学で学ぶこと	A.精神看護学とは何か B.精神障害を持つ人の病いの体験と精神看護	
2	/		C.「心のケア」と日本社会 D.精神看護の課題 E.この本で伝えたいこと	
3	/	精神保健の考え方	A.精神の健康とは	
4	/		B.心身の健康に及ぼすストレスの影響	
5	/		C.心的外傷と(トラウマ)と回復	
6	/		D.精神障害という捉え方	
7	/	心のはたらきと人格の形成	A.心のはたらき ①意識と認知機能 ②感情 ③学習と行動	
8	/		④知能 ⑤心の理論 ⑥心理的特性を図る検査	
9	/		B.心のしくみと人格の発達 ①人格と気質 ②意識と無意識	
10	/		③よい乳房・悪い乳房 ④ライフサイクルとアイデンティティ(エリクソンの漸成的発達理論	
11	/		⑤愛着と心の安全の基地 ⑥自己愛と自己対象体験 ⑦「甘え」理論	
12	/		A.システムとしての人間関係 ①システムとは何か ②二者間における2つの関係パターン	
13	/		B.全体としての家族 ①家族と精神の健康 ②家族の関係性とコミュニケーションに関する研究	
14	/	C.人間と集団 ①集団と個人 ②グループの活用 ③全体としてのグループ ④組織をグループとしてみる		
15	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院				
備考: 認定看護管理者、精神科臨地実習経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				

授業科目名の区分		専門分野			
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員	
精神看護学方法論 I	講義	2年次前期	1単位/30時間	専任教員	
目的	精神症状や徴候を知り、精神障害の診断と分類、精神科における治療について学び、科学的根拠に基づいた適切な治療や看護について学ぶ。精神障害に関する歴史、法制度について学ぶ。				
目標	1. 精神看護における「症状のとらえ方」を理解する。 2. 精神療法とはどのようなものか、実際どのように用いられているのかを理解する。 3. 精神障害者を支える保健医療福祉制度について理解できる。				
評価方法	1. 筆記試験(100%)				
回	日時	授業内容	内容	担当者	
1	/	精神科疾患のあらわれ方	A. 精神を病むことと生きること ①「病いの経験」の理解への手がかり ②さまざまな病気の説明の仕方をさぐる ③看護と精神医学の広がり		
2	/		B. 精神症状論と状態像 ①症状とは何か ②さまざまな精神症状		
3	/		C. 精神障害の診断と分類 ①診断と疾病分類 ②統合失調症		
4	/		③気分「感情」障害[双極性障害および関連症候群、抑うつ障害群] ④神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害		
5	/		⑤精神作用物質使用による精神および行動の障害 ⑥各発達段階で現れやすい精神障害・心的不調		
6	/	精神科での治療	A. 精神科における治療		
7	/		B. 精神療法 ①個人療法		
			②集団精神療法 ③家族療法		
8	/		C. 薬物療法 ①精神科治療における薬物療法の意義 ②向精神薬とその種類 ③看護師による服薬へのかかわり		
9	/		D. 電気けいれん療法その他 ①電気けいれん療法 ②その他の身体療法		
10	/		E. 環境療法・社会療法 ①環境療法・社会療法の歴史 ②治療共同体の実践 ③日本における社会療法の歴史 ④作業療法 ⑤精神科リハビリテーション		
11	/		社会の中の精神障害	A. 精神障害と治療の歴史 ①精神障害と宗教治療 ②岩倉保養所とゲールコロニー ③ギリシャ時代の精神医学 ④アラビア医学と中世以降の魔女裁判	
12	/			B. 日本における精神医学・精神医療の流れ ①第二次世界大戦までの精神障害者の処遇 ②呉秀三の松沢病院改革と精神科看護	
13	/			C. 精神障害と文化 ①国際化と地球規模の人々の移動 ②文化的感受性と文化的能力	
14	/			D. 精神障害と社会学 E. 精神障害と法制度	
		F. おもな精神保健医療福祉対策とその動向			
15	/	テスト			
履修者へのコメント:					
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院					
備考: 精神看護の臨床経験者					

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位/時間	担当教員
精神看護学方法論Ⅱ	講義	2年次前期	1単位/30時間	専任教員
目的	看護ケアの原則を学び、入院環境を整える重要性、心理的・身体的なケアのもつ意味を理解する。また、基本的な看護について学ぶ。			
目標	1. 人間関係を土台に精神看護の果たす役割が理解できる。 2. 精神障害者の社会復帰、地域との結びつき、重要性について理解できる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	ケアの人間関係	A. ケアの前提 B. ケアの原則 C. ケアの方法 D. 関係をアセスメントする	
2	/		E. 患者—看護師関係における感情体験 F. 関係の視点からみた困難事例 G. チームのダイナミクス	
3	/	回復を支援する	A. 回復の意味 B. リカバリーのビジョン	
4	/		C. 治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 D. リカバリーを促す環境	
5	/		E. リカバリーを促す方法としてのグループ F. さまざまな回復のためのプログラム G. リカバリーのプログラム	
6	/		A. 「器」としての地域 B. 地域における生活支援の方法	
7	/		C. 地域におけるケアの方法と実際	
8	/	入院治療の意味	D. 学校におけるメンタルヘルスと看護 E. 職場におけるメンタルヘルスと精神看護	
9	/		A. 精神科を受診するということ B. 治療の器としての病院・病棟 C. 入院中の観察とアセスメント	
10	/		D. ケアの方向性を考える E. 退院に向けての支援と実際	
11	/	身体をケアする	A. 精神科における身体のケア B. 精神科における身体を通した看護ケアの実際	
12	/		C. 精神科の治療に伴う身体のケア D. 身体合併症のアセスメントとケア E. 精神科における終末期ケア	
13	/		A. リスクマネジメントの考え方と方法 ①安全の条件 ②リスクマネジメントと行動制限	
14	/	安全を守る	B. 緊急事態に対処する ①緊急事態とは何か ②自殺 ③暴力 ④無断離院 ⑤感染症 C. 緊急事態とスタッフの支援 ①当事者となったスタッフへの支援 ②ピアサポートとしてのグループディフリーフィング	
15	/		テスト	
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院				
備考: 精神看護の臨床経験者				

授業科目名の区分		専門分野		
授業科目名	授業形態	開講時期	単位／時間	担当教員
精神看護学方法論Ⅲ	講義	2年次後期	1単位／15時間	専任教員
目的	医療の場やそれ以外の場における精神看護と看護師のメンタルヘルスについて知り、看護師への支援について学ぶ。事例の展開を通して精神看護の視点を学ぶ。			
目標	1. 災害がもたらす身体的・精神的・社会的影響についてわかる。 2. 対人援助には不可欠の感情労働とは何かを理解する。 3. 事例を通して看護過程を展開することで精神疾患患者の理解が深まる。			
評価方法	1. 筆記試験(100%)			
回	日時	授業内容	内容	担当者
1	/	医療の場におけるメンタルヘルスと看護	A. 身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス B. リエゾン精神看護とその活動 C. リエゾンナースの活動の実際 D. 看護師のメンタルヘルスへの支援	
2	/	災害時のメンタルヘルスと看護	A. 災害時における心のケア B. 災害にみまわれた人の心のケア C. 支援者のメンタルヘルスとケア	
3	/	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	A. 看護師の不安と防衛 B. 感情労働としての看護 C. 看護師の感情ワーク	
4	/	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	D. 看護における共感の光と影 E. 感情労働の代償と社会 F. 共感疲労を予防するためのいくつかのヒント	
5	/	事例展開	精神障害のある人の看護過程 看護アセスメント・看護問題の抽出・ケアプラン立案・評価	
6	/	事例展開	グループワーク	
7	/	事例展開	発表 アセスメント・ケアプラン修正	
8	/	テスト		
履修者へのコメント:				
使用テキスト: 系統看護学講座 専門 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院				
備考: 精神看護の臨床経験者(看護師として総合病院での実務経験あり。)				